

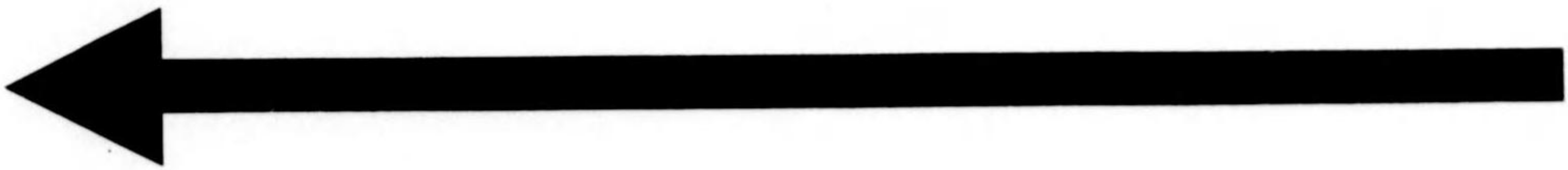
60-1476



60-1476



始



1-90



穴
學



序

灸療に經絡と孔穴との重要なことは云ふまでもなく、灸療に効力の有無と多少との差あるものは只單に此要穴の撰定法が適宜なること、適宜ならざることにあるものにて、灸療には其他に何の技術をも要するものにあらず、それ故に灸療を學ぶものは此經絡と孔穴との研究に最も十分力めざるべからず、併し元來經絡も孔穴も其昔し支那哲學から出發したるものにて、嘗てこれを科學的に精しく研究したるものなく、從てこれを知り學ぶにも適當なる文献もなく、又教科書等も殆ど欠けて居る、此に於て予は未熟ながらこれを調査實驗すること三十年、其間多少の知り得たるどころもあれば、茲にこれを輯集して本書を稿し

今灸療を學ぶもの及び向來灸療を研究するもの、便に資せんと欲す、學者若し誤りこ、足らざることを發見せば希くは速に教示を垂れ給はんことを。

昭和二年七月

著者

再版の序

經絡は古代支那人の妄想到過ぎすと稱し、其不要論を主張する學者などもあるが、それは自己の知り得ざることは、何ごとも皆妄想である、とする淺い識見であるまいか、經絡が空想的のものでないことは其經穴が「ヘット」氏帶の最感點に一致することなども、これを證するのである、又灸療に於て其用ふる點穴が僅かに其位置を誤つても効が無いことに依つても經穴が眞に要點であることが解かるのである、又骨盤内臓器に根底を有つところの膀胱經、督脉經が總べて一切の疾病治療上最も重要な治療點であることなども、經絡に就て興味ある事實である。

今や醫學の進歩は深く其蘊奥に達し、解剖、生理の研究に於ては方に植物性神經、内分泌等に向つて進みつゝある時に當り、灸療、鍼治の應用が特に血管神經、

内臓神経に感應し、内分泌、筋トリス等の機能に關係することなどを考へるときは、宛も現代醫學の向つて進む研究と全く一致するのである、若し然るときは此兩方面より進むところに於て容易に且速かに其研究は進歩し、植物性神経の解剖、内分泌の生理も、又灸療、鍼治の學理も自ら更に精細に知り得ることになるのであろふか、これに依つて考ふる時は現代醫學の要求する研究の途は二千年の昔に於て漢方醫學が已に踏み來つたところの途であつて、此經絡と經穴は實に灸療、鍼治に於て必要なるのみならず、其研究に依りて解剖學、生理學の進歩を助くる先導者ともなり得るのであることを信するのである。茲に予は僅かに研究し得たところを増補して經穴學再版を發刊することとせり若し幾分にも學者の參考に資するものあれば予の本懐これに過ぐるものないのである。

昭和十二年七月

著

者

凡 例

- 一、本書は經穴と經絡の研究に資するため、直接用なき自然現象、易理の陰陽消長等をも少しくこれを記載せり。
- 一、普通灸療、鍼治を學ぶものは本書の經穴篇を修得すれば足る。
- 一、經穴中禁穴を知り易からしめるため、灸の禁穴には（一）を、鍼の禁穴には「」を附したり。

經穴學目次

緒

論

經穴篇

第一章 經

穴

I、十四經絡各經の穴

II、身體各部に於ける經穴

III、身體各部に於ける經穴の經絡的分類

1、經絡的分類

2、陰陽的分類

第二章 經穴を求むる尺度標準

I、横指(二寸)

一
五
五
七
五
七
五
五
四
五
五

Ⅰ、同身寸…………… 二

第三章 經穴各個の説明…………… 五

- 第一、手太陰肺經の穴…………… 五
- 第二、手陽明大腸經の穴…………… 六
- 第三、足陽明胃經の穴…………… 八
- 第四、足太陰脾經の穴…………… 一〇
- 第五、手少陰心經の穴…………… 一七
- 第六、手太陽小腸經の穴…………… 一四
- 第七、足太陽膀胱經の穴…………… 一五
- 第八、足少陰腎經の穴…………… 二〇
- 第九、手厥陰心包經の穴…………… 三六
- 第十、手少陽三焦經の穴…………… 三五
- 第十一、足少陽膽經の穴…………… 三五

第四章 改正孔穴…………… 三〇

- 第十二、足厥陰肝經の穴…………… 六六
- 第十三、督脈經の穴…………… 二九
- 第十四、任脈經の穴…………… 三一

Ⅰ、改正孔穴の分類…………… 三〇

Ⅰ、各經絡の孔穴數…………… 三三

- 1、十四經絡に於ける各經の孔穴數…………… 三四
- 2、十四經絡に於ける各經の孔穴名…………… 三四

Ⅱ、身體各部に於ける孔穴數…………… 三四

Ⅲ、改正孔穴各個の説明…………… 三五

第五章 禁穴…………… 三七

Ⅰ、經絡的禁穴…………… 三七

- 1、禁灸穴……………三九九
- 2、禁鍼穴……………三九九
- 3、婦人禁穴……………三八〇
- 4、小兒鍼灸禁穴……………三八一
- Ⅰ、各經絡に於ける禁穴……………三八二
 - 1、禁灸穴……………三八二
 - 2、禁鍼穴……………三八五
- Ⅱ、身體各部に於ける禁穴……………三八七
 - 1、禁灸穴……………三八七
 - 2、禁鍼穴……………三八〇
- Ⅲ、禁灸の理由……………三九二
- Ⅳ、禁穴にあらざる禁灸の穴……………三九六
- 解剖的禁穴……………三九九

經絡篇……………四〇一

第一章人體の臟腑……………四〇一

Ⅰ、臟と腑……………四〇一

Ⅱ、無形の臟腑……………四〇一

1、心 包(臟)……………四〇二

2、三 焦(腑)……………四〇二

第二章臟腑と四肢の關係……………四〇五

第二章經絡……………四一〇

第四章臟腑と陰陽の關係……………四一〇

第五章陰陽循環の順路……………四一三

第六章全身の經絡……………四一四

1、各經絡循行の經路……………四三四

第一、手太陰肺經……………四三四

第二、手陽明大腸經……………四三五

第三、足陽明胃經……………四三六

第四、足太陰脾經……………四三七

第五、手少陰心經……………四三八

第六、手太陽小腸經……………四三九

第七、足太陽膀胱經……………四四〇

第八、足少陰腎經……………四四一

第九、手厥陰心包經……………四四二

第十、手少陽三焦經……………四四三

第十一、足少陽膽經……………四四四

第十二、足厥陽肝經……………四四五

第十三、督脈……………四四六

第十四、任脈……………四四七

I、經絡循行の順序……………四四八

II、經絡相互の交通……………四四九

III、十四經の起始と終末……………四五〇

V、十四經と臟腑の關係……………四五二

1、經絡と臟腑との聯絡……………四五三

2、經絡と關聯する臟器……………四五四

VI、身體各部に於ける經絡……………四五五

VII、身體各部に於ける十四經の通路……………四五七

VIII、全身經絡の循行する方向……………四八五

IX、十四經絡の起始終末表……………四九八

第七章 奇 經

I、奇經の經絡……………五〇二

II、奇經の起始及び終末……………五〇八

III、各奇經に屬する穴名……………五〇九

IV、奇經の陰陽……………五二二

第八章 身體各部を通過する經絡

……………五一四

第九章 經絡の主なる交通

……………五一九

陰 陽 篇

……………五四三

第一章 陰 陽

……………五四三

I、太極と陰陽……………五四四

II、陰陽の變合消長……………五四五

1、五 行……………五四五

2、五 位……………五四六

3、五 色……………五四六

4、五 味……………五四六

5、五 音……………五四七

6、五 數……………五四七

7、五 常……………五四七

8、五 臟……………五四七

II、陰陽の數……………五四八

III、八卦……………五四八

V、四時と干支……………五四九

1、四 時……………五四九

2、十 干……………五五〇

陰陽と干支.....	五五一
3、十 二 支.....	五六一
陰陽と十二支.....	五六一
4、月と十二支.....	五五三
5、月と陰陽.....	五五三
6、月と律呂.....	五五七
7、六律六呂.....	五五八
8、二十四節.....	五五八
VI、陰陽の分類.....	五六〇
1、六陰六陽.....	五六〇
2、三陰三陽.....	五六三
(1) 三陰(少陰、太陰、厥陰).....	五六三
(2) 三陽(陽明、太陽、少陽).....	五六五

經穴學

富永勇 著

緒論

灸療を學ぶには、人體の解剖、生理の外、尙漢方醫學の基礎となる經絡と經穴をも研究せねばならぬ、即ち疾病治療の目的を以て鍼治、灸療を人體に應用するところの要點はこれを経穴、又は俞穴と稱し、其要點の部位は只解剖學、生理學の關係のみに依つてこれを定めるのでなく、漢方醫學の原理に基いてこれを定められたものである。

元來漢方醫學は支那哲學の易理から出發したものであつて、宛かも世界大自然の森羅萬象が陰陽二氣の交錯に因て發現する如く、人體の發生及び其生活機の根源も亦皆同じく此陰陽二氣の交錯に基くものであつて、而して其疾病は即ち人體中に於ける此陰陽元氣の調和を失した場合の發現である。これが漢方醫學に於ける病理の基礎となるもので、其病源も、治療法も皆此理に據るのである。此陰陽元氣と云ふものは或は陰陽の衛氣とも云ひ、又氣血とも云ひ宛かも電氣と同じく其交流は素より肉眼にて見るべきものにあらざるは云ふまでもなく、従つて亦其氣血の人體に循行する經路、即ち經脈と稱するものも亦素より其形を有せざるは勿論である、此經路を名付けて經絡と云ふ、而して其經絡の經過中に於て其分岐、交通、集注する等の要點を名付けて穴と云ふ。漢方醫學の病理に依て疾病の治療を爲すことは藥物を用ふること、鍼治、灸療をなすこと、皆只陰陽補瀉の理に依るものにして、即ち藥物は内部よりする

補瀉、灸療と鍼治とは外部より行ふところの補瀉である、而して其外部より補瀉を行ふところの鍼治と灸療とは其應用するところの要點、即ち經穴が其病に適應するに否に依て實に疾病治療の效果の有無を決するものであつて、其經穴の撰定は丁度醫師が藥物の撰定をなすと同じく、従つて醫師が藥物學の智識を要する如く灸療家及び鍼治家は此經絡と經穴に就て充分に研究し、詳細にこれを知得せねばならぬのである。



經穴篇

第一章 經穴



經穴は經絡が循行する途中に於て陰陽元氣の出る處、入る處、分流する處、流注する處等の要點にして、此點を俞穴とも稱し、孔穴とも云ふ、而して又各經絡の經路に存する故經穴とも稱す。

ものは肝經の羊矢を省く、而して兩側を合算すれば六百十二穴を有す、これに前後正中線に存する無對の經の五十四穴を加へると全數六百六十六穴となる。

但し其名稱は體の偏側と前後正中線に存する穴にて合計三百六十あるものとす。
然して經穴は左の如く各經絡に屬す。

- 第一、手太陰肺經 十一穴
- 第二、手陽明大腸經 二十穴
- 第三、足陽明胃經 四十六穴
- 第四、足太陰脾經 二十一穴
- 第五、手少陰心經 九穴
- 第六、手太陽小腸經 十九穴
- 第七、足太陽膀胱經 六十三穴
- 第八、足少陰腎經 二十七穴
- 第九、手厥陰心包經 九穴
- 第十、手少陽三焦經 二十三穴

- 第十一、足少陽胆經 四十三穴
- 第十二、足厥陰肝經 十五穴

以上の經は身體の左右に存す、即ち有對にして各二系宛あるものとす。

- 第十三、任脈經 二十四穴
- 第十四、督脈經 三十穴

この二系は無對にして身體に只一系宛を存するのみ。

一、十四經絡に於ける各經の穴

- 第一、手太陰肺經 十一穴(禁灸穴一四)
- 中府 [雲門] (天府) 俠白 尺澤 孔最
- 列缺 (經渠) 大淵 (魚際) (少商)

第二、手陽明大腸經 二十穴(禁灸穴一二)

商陽 二間 三間 合谷 陽谿 偏歷
溫溜 下廉 上廉 三里 曲池 肘髎
〔五里〕 臂臑 肩髃 巨骨 天鼎 扶突
〔禾髎〕 〔迎香〕

第三、足陽明胃經 四十六穴(禁灸穴九)

〔承泣〕 四白 巨髎 地倉 大迎 頰車
〔下關〕 〔頭維〕 〔人迎〕 水突 氣舍 〔缺盆〕
氣戶 庫房 屋翳 膺窗 〔乳中〕 乳根
不容 承滿 梁門 關門 太乙 滑肉門
天樞 外陵 大巨 水道 歸來 〔氣衝〕

〔脾關〕 〔伏兔〕 〔陰市〕 梁丘 〔犢鼻〕 膝眼
三里 巨虛上廉 〔條口〕 巨虛下廉 豐隆 解谿
衝陽 陷谷 內庭 厲兌

但し通常膝眼を加へず四十五穴と云ふ。

第四、足太陰脾經 二十一穴(禁灸穴五)

〔隱白〕 大都 太白 公孫 商丘 三陰交
〔漏谷〕 地機 〔陰陵泉〕 血海 〔箕門〕 衝門
府舍 腹結 大橫 〔腹哀〕 食竇 天谿
胸鄉 〔周榮〕 大包

第五、手少陰心經 九穴(禁灸穴ナシ)

極泉 〔青靈〕 少海 靈道 通里 陰郛
神門 少府 少衝

第六、手太陽小腸經

十九穴 (禁灸穴ナシ)

少澤 前谷 後谿 腕骨 陽谷 養老
支正 小海 (肩貞) 臑俞 天宗 秉風
曲垣 肩外俞 肩中俞 天窗 (顙膠)
聽宮

第七、足太陽膀胱經

六十三穴 (禁灸穴三)

(晴明) (橫竹) 曲差 五處 (承光) 通天
[絡却] [玉枕] (天柱) 大杼 風門 肺俞
厥陰俞 (心俞) 膈俞 肝俞 膽俞 脾俞
胃俞 三焦俞 腎俞 大腸俞 小腸俞 膀胱俞
中膂內俞 (白環俞) 上膠 次膠 中膠 下膠

第八、足少陰腎經

二十七穴 (禁灸穴ナシ)

會陽 (承扶) (殷門) (委中) 附分 魄戶
膏肓 神堂 譙諳 膈關 魂門 陽綱
意舍 胃倉 盲門 志室 胞盲 秩邊
浮郄 委陽 合陽 [承筋] 承山 飛揚
跗陽 崑崙 僕參 (申脉) 金門 京門
東骨 通谷 至陰
湧泉 然谷 太谿 太鐘 照海 水泉
復留 交信 築賓 陰谷 [橫骨] 大赫
氣穴 四滿 中注 盲俞 商曲 石關
陰都 通谷 幽門 步廊 神封 靈墟
神藏 或中 俞府

第九、手厥陰心包經 九 穴(禁灸穴ナシ)

天地 天泉 曲澤 郄門 間使 內關
大陵 勞宮 (中衝)

第十、手少陽三焦經 二十三穴(禁灸穴三)

關衝 腋門 中渚 (陽池) 外關 支溝
會宗 [三陽絡] 四瀆 天井 清冷淵 消滌
臑會 肩髃 天膠 (天牖) 翳風 瘰癧
[顛息] [角孫] 和膠 耳門 (絲竹空)

第十一、足少陽膽經 四十三穴(禁灸穴二)

瞳子髎 聽會 [上關] 額厭 懸顛 懸釐
曲鬢 率谷 天衝 浮白 竅陰 完骨

第十二、足厥陰肝經 十五穴(禁灸穴一)

本神 陽白 (臨泣) 目窓 正營 [承靈]
腦空 風池 肩井 環跳 (淵腋) 日月
輒筋 京門 帶脉 五樞 維道 居膠
(陽關) 中瀆 陽陵泉 陽交 外丘 光明 俠谿
陽輔 懸鐘 丘墟 臨泣 (地五會) 俠谿
竅陰

大敦 行間 大衝 中封 蠡溝 中都
膝關 曲泉 陰包 五里 陰廉 [羊矢]
[急脉] 章門 期門

但し通常急脉を省いて十四穴とす。

第十三、督脉 三十穴(禁灸穴六)

第十四、任脉 經 二十四穴(禁鍼灸穴一)

長強	腰俞	陽關	下極	命門	懸樞
接脊 <small>(脊中)</small>	中樞	筋縮	至陽	<small>[靈臺]</small>	
<small>[神道]</small>	身柱	陶道	大椎	<small>(瘧門)</small>	<small>(風府)</small>
<small>[腦戶]</small>	強間	後頂	<small>[百會]</small>	前頂	<small>[顛會]</small>
上星	<small>[神庭]</small>	<small>(素膠)</small>	水溝	兌端	斷交
<small>[會陰]</small>	曲骨	中極	關元	石門	氣海
陰交	<small>[神闕]</small>	<small>[水分]</small>	下脘	建里	中脘
上腕	巨骨	<small>[鳩尾]</small>	中庭	<small>[臍中]</small>	玉堂
紫宮	華蓋	璇璣	天突	廉泉	承漿

I、身體各部に於ける經穴

各經絡の經穴を身體各部に分類するときは次の如し。

い、頭部 三十六穴(内禁鍼灸穴九)

- 1、矢狀線(正中線) 九穴(内禁鍼灸穴一)
 - [神庭] 上星 [顛會] 前頂 [百會] 後頂
 - 強間 [腦戶] (風府)(以上督脉)
- 2、第一側線(正中線の外方二寸) 六穴(内禁鍼灸穴二)
 - 曲差 五處 (承光) 通天 [絡却] [玉枕]
- 3、第二側線(正中線の外方四寸) 六穴(内禁鍼灸穴一)
 - (以上膀胱經)

陽白 (臨泣) 目窓 正營 [承靈] 腦空

4、 頤 頤 線 九 穴 (內禁灸穴一)

(頭維) (胃經) 本神 頤 厭 懸 頤 懸 釐 曲 鬢 率 谷

天 衝 (以上七穴膽經) 天 衝 (以上七穴膽經)

[角 孫] (三焦經)

5、 耳 後 部 六 穴 (內禁灸穴一)

[頤 息] 瘰 脉 翳 風 (以上三焦經) 浮 白 竅 陰 完 骨 (以上膽經)

ろ、 頤 面 二十四穴 (內禁灸穴一八)

(橫 竹) (晴 明) (以上膀胱經)

瞳子膠 上 關 聽 會 (以上膽經)

(絲竹空) 和 膠 耳 門 (以上三焦經)

[承 泣] 四 白 巨 膠 地 倉 頰 車 大 迎

(下 關) (以上胃經)

(迎 香) (禾 膠) (以上大腸經)

(顙 膠) 聽 宮 (以上小腸經)

(素 膠) 水 溝 兌 端 斷 交 (以上督脈經)

承 漿 (任脈經)

は、 頸 部 十四穴 (內禁灸穴一四)

(瘰 門) (督脈經)

(天 柱) (膀胱經)

風 池 (膽經)

廉泉 天突 (以上任脉經)
 天容 天窗 (以上小腸經)
 (天牖) (三焦經)
 (人迎) 水突 氣舍 [缺盆] (以上胃經)
 扶突 天鼎 (以上大腸經)

に、背部

六十四穴 (内禁灸穴二)

1、肩胛部 十二穴 (内禁灸穴一)

肩井 (膽經)
 (肩貞) 臑俞 天宗 秉風 曲垣 肩外
 肩中 (以上小腸經)
 天膠 肩膠 (三焦經)
 肩髃 巨骨 (以上大腸經)

2、背部正中線

十六穴 (内禁灸穴二)

大椎 陶道 身柱 [神道] [靈臺] 至陽
 筋縮 十椎 (脊中) 接脊 懸樞 命門
 下極 陽關 腰俞 長強 (以上督脉經)

3、背部第一側線 (正中線の外方一寸五分) 二十二穴 (内禁灸穴三)

大杼 風門 肺俞 厥陰俞 (心俞) 膈俞
 肝俞 膽俞 脾俞 胃俞 三焦俞 腎俞
 大腸俞 小腸俞 膀胱俞 中膂俞 (白環俞) 上膠
 次膠 中膠 下膠 會陽 (以上膀胱經)

但し上膠以下の五穴は正中線を距る五分に在り

4、背部第二側線 (正中線の外方三寸) 十四穴

附分 魄戶 膏肓 神堂 譙譙 膈關

魂門 陽綱 意舍 胃倉 盲門 志室
胞盲 秩邊(以上膀胱經)

ほ、胸部 二十八穴(内禁灸穴三)

1、正中線 六穴(内禁灸穴二)

璇璣 華蓋 紫宮 玉堂 [膻中] 中庭

2、胸部第一側線(正中線の外方二寸) 六穴

輪府 或中 神藏 靈墟 神封 步廊

3、胸部第二側線(正中線の外方四寸) 六穴(内禁灸穴二)

氣戶 庫房 屋翳 膺窓 (乳中) 乳根

4、胸部第三側線(正中線の外方六寸) 六穴(内禁灸穴一)

[雲門] 中府(以上肺經)
(周榮) 胸鄉 天谿 食竇(以上脾經)

5、腋下 四穴(内禁灸穴二)

腋筋 淵腋(以上膽經)
大包(脾經)
天池(心包經)

へ、腹部 五十三穴(内禁灸穴三)

1、正中線 十四穴(内禁灸穴三)

[鳩尾] 巨闕 上脘 中脘 建里 下脘
[水分] [神闕] 陰交 氣海 石門 關元

中極 曲骨 (以上任脉經)

2、腹部第一側線 (正中線の外方五分) 十一穴 (内禁鍼穴二)

幽門 通谷 陰都 石關 商曲 盲俞

中注 四滿 氣穴 大赫 [横骨] (以上腎經)

3、腹部第二側線 (正中線の外方二寸五分) 十二穴 (内禁鍼穴一)

不容 承滿 梁門 關門 大乙 滑肉門

天樞 外陵 大巨 水道 歸來 [氣衝]

(以上胃經)

4、腹部第三側線 (正中線の外方三寸五分) 七穴 (禁鍼穴二)

期門 (肝經)

日月 (膽經)

(腹哀) 大横 腹結 府舍 衝門 (以上脾經)

一、側腹部列外

八穴 (内禁鍼灸穴一)

脇髎 [急脉] (羊矢) (以上肝經)

京門 帶脉 五樞 居髎 維道 (以上膽經)

一、會陰部 一穴 (禁鍼穴一)

[會陰] (任脉經)

と、上肢 六十一穴 (内禁鍼灸穴三)

1、上膊 十七穴 (内禁鍼灸穴二)

(天府) 俠白 尺澤 (以上肺經)

天泉 曲澤 (以上心包經)

極泉 少海 [青靈] (以上心經)

臂臑 [五里] 肘髎 曲池 (以上大腸經)

臑會 消灤 清冷淵 天井(以上三焦經)

2、前膊 二十七穴(內禁灸穴二)

孔最 列缺 經渠 大淵(以上肺經)
郄門 間使 內關 大陵(以上心包經)
靈道 通里 陰郄 神門(以上心經)
三里 上廉 下廉 溫溜 偏歷 陽谿

(以上大腸經)

四瀆 [三陽絡] 會宗 支溝 外關 (陽池)

(以上三焦經)

支正 養老 陽谷 (以上小腸經)

3、手及び指 十七穴(內禁灸穴三)

(魚際) (少商) (以上肺經)

勞宮 (中衝) (以上心包經)

少府 少衝 (以上心經)

合谷 三間 二間 商陽 (以上大腸經)

中渚 腋門 關衝 (以上三焦經)

腕骨 後谿 前谷 少澤 (以上小腸經)

ち、下肢 八十穴(內禁灸穴十四)

1、大腿及其上部 十九穴(內禁灸穴七)

[箕門] 血海 (以上脾經)

極泉 陰廉 五里 陰包 (以上肝經)

(髀關) (伏兔) (陰市) 渠丘 (以上胃經)

環跳 中渚 (陽關) (以上膽經)

(承扶) (股門) (委中) 浮郄 委陽 (以上膀胱經)

2、下 腿

二十八穴 (內禁灸穴一四)

(陰陵泉) 地機 (漏谷) 三陰交 (以上脾經)

膝關 中都 蠡溝 (以上肝經)

築賓 交信 復留 (以上腎經)

(犢鼻) 膝眼 三里 巨虛の上廉 (條口) 巨虛の下廉

豐隆 (以上胃經)

陽陵泉 陽交 外丘 光明 陽輔 懸鐘

(以上膽經)

合陽 [承筋] 承山 飛揚 跗陽 (以上膀胱經)

3、足及び趾

三十三穴 (內禁灸穴三)

商丘 太白 公孫 大都 (隱白) (以上脾經)

中封 太衝 行間 大敦 (以上肝經)

大鐘 大谿 水泉 照海 然谷 湧泉

(以上腎經)

解谿 衝陽 陷谷 內庭 嘯兌 (以上胃經)

丘墟 臨泣 (地五會) 俠谿 竅陰 (以上膽經)

崑崙 僕參 (申脉) 金門 京骨 束骨

通谷 至陰 (以上膀胱經)

III、身體各部に於ける經穴の經絡的分類

經穴を經絡及び陰陽の系統的に身體各部に於て分類する時は左の如し。

第一、經絡的分類

一、頭部

三十六穴

(1) 督脉經 九穴(內禁灸穴一)

〔神庭〕 上星 〔顛會〕 前頂 〔百會〕 後頂

強間 〔腦戶〕 〔風府〕

(2) 膀胱經 六穴(內禁灸穴二)

曲差 五處 〔承光〕 通天 〔絡却〕 玉枕

(3) 三焦經 四穴(內禁灸穴二)

翳風 瘰脉 〔顛息〕 〔角孫〕

(4) 膽經 十六穴(內禁灸穴一)

陽白 〔臨泣〕 目窓 正營 〔承靈〕 腦空

本神 頷厭 懸顛 懸釐 曲鬢 率谷

一、顏面

二十四穴(內禁灸穴八)

(5) 胃經 一穴(禁灸穴)

天衝 浮白 竅陰 完骨

〔頭維〕

(1) 任脉經 一穴

承漿

(2) 督脉經 四穴(內禁灸穴二)

〔素膠〕 水溝 兌端 斷交

(3) 小腸經 一穴(內禁灸穴一)

〔顛膠〕

(4) 膀胱經 二穴(內禁灸穴二)

〔橫竹〕 〔晴明〕

(5) 三焦經 三穴 (內禁灸穴二)

(絲竹空) 耳門 和膠

(6) 膽經 三穴

瞳子膠 上關 聽會

(7) 大腸經 二穴 (禁灸穴二)

(迎香) (禾膠)

(8) 胃經 七穴 (內禁灸穴二)

(承泣) 四白 巨膠 地倉 大迎 頰車

(下關)

一、頸部 十四穴 (內禁灸穴一四)

(1) 任脈經 二穴

(7) 大腸經 二穴	(6) 風池 一穴	(5) (天柱) 膀胱經 一穴 (禁灸穴)	(4) 三焦經 一穴 (禁灸穴)	(3) 天窗 天容 二穴	(2) (瘧門) 督脈經 一穴 (禁灸穴)	廉泉 天突
------------	-----------	-----------------------	------------------	--------------	-----------------------	-------

扶突 天鼎

(8) 胃經 四穴 (內禁灸穴一)

(人迎) 水突 氣舍 [缺 盆]

一、背部

六十四穴 (內禁灸穴二四)

(1) 督脉 經 (正中線) 十六穴 (內禁灸穴二)

大椎 陶道 身柱 [神道] [靈臺] 至陽

筋縮 十椎 (脊中) 接脊 懸樞 命門

下極 陽關 腰俞 長強

(2) 膀胱 經 (第一、第二側線) 三十六穴 (內禁灸穴二)

大杼 風門 肺俞 厥陰俞 (心俞) 膈俞

肝俞 膽俞 脾俞 胃俞 三焦俞 腎俞

大腸俞 小腸俞 膀胱俞 中膂俞 中膂俞 (白環俞) 上膠

次膠 中膠 下膠 會陽 附分 魄戶

膏肓 神堂 譚諶 隔關 魂門 陽綱

意舍 胃倉 盲門 志室 胞盲 秩邊

(3) 小腸 經 七穴 (內禁灸穴一)

(肩貞) 臑俞 天宗 秉風 曲垣 肩外

(4) 三焦 經 二穴

肩中 天膠 肩膠

(5) 膽 經 一穴

肩井

(6) 大腸 經 二穴

肩 髑 巨 骨

一、胸 部 二十八穴 (內禁灸穴三)

(1) 任 脉 經 (正中線) 六 穴 (內禁灸穴一) [膻 中] 中 庭

璇 璣 華 蓋 紫 宮 玉 堂 [膻 中] 中 庭

2、 肺 經 (第三側線) 二 穴 (內禁灸穴一)

[雲 門] 中 府

(3) 脾 經 (第三側線) 五 穴 (內禁灸穴一)

(周 榮) 胸 鄉 天 谿 食 竇 太 包

(4) 腎 經 (第一側線) 六 穴 神 封 步 廊

輪 府 或 中 神 藏 靈 墟 神 封 步 廊

(5) 膽 經 (淵 腋) 二 穴 (內禁灸穴一)

輒 筋 (淵 腋)

(6) 心 包 經 一 穴

(7) 胃 經 六 穴 (內禁灸穴一)

氣 戶 庫 房 屋 翳 膺 窓 (乳 中) 乳 根

一、腹 部 五十三穴 (內禁灸穴八)

(1) 任 脉 經 (正中線) 十五 穴 (內禁灸穴三)

[鳩 尾] 巨 關 上 脘 中 脘 建 里 下 脘

[水 分] [臍 中] 陰 交 氣 海 石 門 關 元

中 極 曲 骨 [會 陰]

(2) 脾 經 (第三側線) 五 穴 (內禁灸穴一)

(腹 哀) 大 橫 腹 結 府 舍 衝 門

(3) 腎 經 (第一側線) 十一 穴 (內禁灸穴一)



(1) 上肢	(2) 胃	(3) 肝	(4) 膽	幽門	通谷	陰都	石關	商曲	盲俞
(天) 肺	不容	日月	中注	四滿	氣穴	大赫	[橫骨]		
俠白	承滿	京門	經	六穴	帶脉	五樞	維道	居膠	
尺澤	外陵	章門	四穴	穴	[羊矢]	[急脉]			
孔最	大巨	十二穴	經	穴	水道	歸來	太乙	滑肉門	
列缺	水道	經	經	穴	關門	歸來	太乙	滑肉門	
(經渠)	歸來	經	經	穴	關門	歸來	太乙	滑肉門	
	歸來	經	經	穴	關門	歸來	太乙	滑肉門	

(5) 心包經	(4) 三焦經	(3) 心經	(2) 小腸經	大淵	(魚際)	(少商)			
關衝	神門	極泉	小海	前谷	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	
	神門	[青靈]	支正	少澤	少澤	九穴	腕骨	後谿	

(5)	(4)	(3)	(承扶)	(承筋)	(申脉)	腎	陰谷	太谿	膽	環跳	光明	俠谿	肝	曲泉
			(股門)	承山	金門	經	築賓	照海	經	中瀆	陽輔	竅陰	經	陰廉
			(委中)	飛揚	京骨	十穴	交信	然谷	十四穴(內禁灸穴二)	(陽關)	懸鐘		十一穴	五里
			浮郄	跗陽	束骨		復留	湧泉		陽陵泉	丘墟			陰包
			委陽	崑崙	通谷		大鐘			陽交	臨泣			膝關
			合陽	僕參	至陰		水泉			外丘	(地五會)			亮
														中都

(2)	(1)	(6)	天泉	勞宮	大腸	臂臑	下廉	二間
膀胱	商丘	[箕門]	曲澤	(中衝)	經	[五里]	溫溜	商陽
經	公孫	血海	郄門		十四穴(內禁灸穴一)	肘髎	偏歷	
	太白	(陰陵泉)	間使			曲池	陽谿	
十八穴(內禁灸穴一四)	大都	地機	內關			三里	合谷	
	(隱白)	(漏谷)	大陵			上廉	三間	
		三陰交						

一、下 肢

齋溝 中封 太鐘 行間 大敦 囟

(6) 胃 經 十六穴 (內禁灸穴五)

(脾關) (伏兔) (陰市) 梁丘 (犢鼻) 膝眼

三里 巨虛の上廉 (條口) 巨虛の下廉 豐隆 解谿

衝陽 陷谷 內庭 厲兌

第二、陰陽的分類

一、頭部

三十六穴 (內禁灸穴四)

1、手少陽經 四穴 (內禁灸穴二)

翳風 瘰脈 [顛息] [角孫]

2、足太陽經 六穴 (內禁灸穴二)

曲差 五處 (承光) 通天 [絡却] 玉枕

3、足少陽經 十六穴 (內禁灸穴二)

陽白 (臨泣) 目窓 正營 [承靈] 腦空

本神 頰脈 懸顛 懸釐 曲鬢 率谷

天衝 浮白 竅陰 完骨

4、足陽明胃經 一穴 (禁灸穴)

(頭維)

5、督脈 九穴 (內禁灸穴四)

[神庭] 上星 [顛會] 前頂 [百會] 後頂

強間 [腦戶] (風府)

一、顏面部 二十四穴 (內禁灸穴八)

1、手太陽經 二穴 (內禁灸穴二)

(顛膠) 聽宮
 2、手少陽經 三穴(內禁灸穴一)
 (絲竹空) 耳門 和膠
 3、手陽明經 二穴(內禁灸穴二)
 (迎香) (禾膠)
 4、足大陽經 二穴(內禁灸穴三)
 (攢竹) (晴明)
 5、足少陽經 三穴
 瞳子膠 上關 聽會
 6、足陽明經 七穴(內禁灸穴一)
 (承泣) 四白 巨膠 地倉 大迎 頰車
 (下關)

一、頸部 十四穴(內禁灸穴四)

7、督脉 經 四穴(內禁灸穴一)
 (素膠) 水溝 兌端 斷交
 8、任脉 經 一穴
 承漿
 1、手太陽經 二穴
 天窓 天容
 2、手少陽經 一穴(禁灸穴)
 (天牖)
 3、手陽明經 二穴
 扶突 天鼎
 4、足太陽經 一穴(內禁灸穴一)

5、(天柱) 足小陽經 一穴
 風池
 6、足陽明經 四穴(內禁灸穴一)
 (人迎) 水突 氣舍 [缺盆]
 7、督脉 經 一穴(禁灸穴)
 (瘧門)
 8、任脉 經 二穴
 廉泉 天突
 一、背部 六十四穴(內禁灸穴二四)
 1、手太陽經 七穴(內禁灸穴一)
 (肩貞) 臑俞 天宗 秉風 曲垣 肩外

肩中
 2、手少陽經 二穴
 天膠 肩膠
 3、手陽明經 二穴
 肩髃 巨骨
 4、足太陽經 三十六穴(內禁灸穴二)
 大杼 風門 肺俞 厥陰俞 (心俞) 膈俞
 肝俞 膽俞 脾俞 胃俞 三焦俞 腎俞
 大腸俞 小腸俞 膀胱俞 中膂俞 (白環俞) 上膠
 次膠 中膠 下膠 會陽 附分 魄戶
 膏肓 神堂 譙謔 膈關 魂門 陽綱
 意舍 胃倉 盲門 志室 胞肓 秩邊

5、足少陽經 一穴

6、督脉 十六穴(內禁灸穴二)

大椎 陶道 身柱 [神道] [靈台] 至陽

筋縮 十椎 (脊中) 接脊 懸樞 命門

下極 陽關 腰俞 長強

一、胸部 二十八穴(內禁灸穴三)

1、手大陰經 二穴(內禁灸穴一)

[雲門] 中府

2、手厥陰經 一穴

3、足太陰經 五穴(內禁灸穴一)

天池

4、足少陰經 六穴 天谿 食竇 大包

5、足少陽經 二穴(內禁灸穴一) 神藏 靈墟 神封 步廊

6、足陽明經 六穴(內禁灸穴二) 屋翳 膺窓

7、任脉 六穴(內禁灸穴二) [膻中] 中庭

璇璣 華蓋 紫宮 玉堂

8、足太陽經 五十三穴(內禁灸穴八)

9、足太陰經 五穴(內禁灸穴一)

10、足少陰經 五穴(內禁灸穴一)

11、足厥陰經 五穴(內禁灸穴一)

12、足陽明經 五穴(內禁灸穴一)

13、足太陽經 五穴(內禁灸穴一)

14、足少陽經 五穴(內禁灸穴一)

15、足少陰經 五穴(內禁灸穴一)

16、足厥陰經 五穴(內禁灸穴一)

17、足陽明經 五穴(內禁灸穴一)

18、足太陽經 五穴(內禁灸穴一)

19、足少陽經 五穴(內禁灸穴一)

20、足少陰經 五穴(內禁灸穴一)

2、足少陰經

十一穴(內禁鍼穴一)

幽門 通谷 陰都 石門 商曲 盲俞
中注 四滿 氣穴 大赫 [橫骨]

3、足厥陰經

四穴(內禁鍼穴一)

期門 章門 [羊矢] [急脉]

4、足少陽經

六穴

日月 京門 帶脉 五樞 維道 居膠

5、足陽明經

十二穴(內禁鍼穴二)

不容 承滿 梁門 關門 太乙 滑肉門
天樞 外陵 大巨 水道 歸來 [氣衝]

6、任脉

十五穴(內禁鍼穴三)

[鳩尾] 巨關 上腕 中腕 建里 下腕

[水分] [臍中] 陰交 氣海 石門 關元

中極 曲骨 [會陰]

一、上肢部

六十一穴(內禁鍼穴六)

1、手太陰經

九穴(內禁鍼穴四)

(天府) 俠白 尺澤 孔最 列缺 (經渠)

大淵 (魚際) (少商)

2、手少陰經

九穴(內禁鍼穴二)

極泉 [青靈] 少海 靈道 通里 陰都

神門 少府 少衝

3、手太陽經

八穴

小海 支正 養老 陽谷 腕骨 後谿

前谷 少澤

4、手少陽經 十三穴(內禁灸穴一) 天井 四渎 〔三陽絡〕

臑俞 消灤 清冷淵 外關 (陽池) 中渚 腋門

會宗 支溝 鄒門 問使 內關 大陵

5、手厥陰經 八穴(內禁灸穴二)

天泉 曲澤 郄門 問使 內關 大陵

勞宮 (中衝)

6、手陽明經 十四穴(內禁灸穴二)

臂臑 〔五里〕 肘膠 曲池 三里 上廉

下廉 溫溜 偏歷 陽谿 合谷 三間

二間 商陽

一、下肢 八十穴(內禁灸穴十四)

1、足太陰經 十一穴(內禁灸穴三) 箕門 血海 (陰陵泉) 地機 (漏谷) 三陰交

商丘 公孫 太白 大都 (隱白)

2、足少陰經 十穴 陰谷 築賓 交信 復留 大鐘 水泉

大谿 照海 然谷 湧泉

3、足厥陰經 十一穴 曲泉 陰廉 五里 陰包 膝關 中都

蠡溝 中封 大鐘 行間 太敦

4、足太陽經 十八穴(內禁灸穴一四) (承扶) (殷門) (委中) 浮郄 委陽 合陽

[承筋] 承山 飛揚 跗陽 崑崙 僕參

三

	(申脉)	金門	京骨	東骨	通谷	至陰
5、	足少陽經	十四穴(内禁灸穴二)				
	環跳	中瀆	(陽關)	陽陵泉	陽交	外丘
	光明	陽輔	懸鐘	丘墟	臨泣	(地五會)
	俠谿	竅陰				
6、	足陽明經	十六穴(内禁灸穴五)				
	(髀關)	(伏兔)	(陰市)	梁丘	(犢鼻)	膝眼
	三里	巨虛ノ上廉	(條口)	巨虛ノ下廉	豐隆	解谿
	衝陽	陷谷	內庭	厲兌		

第二章 經穴を求むる尺度標準

Ⅰ、横指(一寸)

經穴を求むるに用ふる尺度は通常尺度の寸法を用ふるにあらず、其尺度は簡便に中指と拇指にて丸く環を造り其中指第二節側面の上下横皺の間の長徑を一寸と定めるのである。

但し被術者の手指にて、男子は左、女子は右の指を用ふるものとす。又拇指第一節の横徑を以て一寸とすることもある、此れは中指第二節の長徑を一寸とするものと大差は無い、それで通常一寸、或は一指横徑(略して一横指と云ふ)、と稱して孰れも同じことに用ひて居る。

改正孔穴では「此篇に示す處の横徑は、大人に在りては術者の指、小人に在りては被術者の指を以て標準とす」と示して在つて、皆幾指横徑といふことを尺度に用ひて居る、但し何れの指の横徑なるかを示してないが、無論舊來の例に準じて拇指を用ふるるのであるふ、而して、大人は術者の手指を用ふることになつて居るが、これは被術者の指を用ふる方が適當である。又四横指を以て一夫と稱することもある、又三横指を一夫と云ふこともあるが、これ等は今は用ふることは無い。

Ⅰ、同身寸

前項記載の横指一寸といふことは精確にあらず、若し正しく人體を測定するには舊來の同身寸の法を用ひねばならぬ。併し經穴を求むるに只此寸法に斗り重きを置くも亦實際には却つて誤りを來すこともある、乃ち解剖學上の位置を基

礎として、夫れに寸法を適用するものでなければならぬ、夫れ故煩はしき同身寸法の必要は多くは無いのである。

左に主なる身体部位の寸法を擧げて置く

一、人體の身長、七尺五寸。

一、頭蓋の周圍(眉上より後頭結節を一週する線)二尺六寸。

一、頭部矢狀徑(前髮際より後髮際に至る)一尺二寸。

但し前髮際不明なるものは眉間より上方二寸五分、後髮際不明なるものは大椎(第七頸椎上際)より上方三寸五分を髮際とす。

一、左右顴骨突起の間、七寸。

一、前頭髮際より頤端まで、一尺。

一、結喉の上廉より胸骨上縁まで、四寸。

一、胸骨上縁より胸骨剣尖の中央まで、九寸。

但し胸骨體の下端までは八寸。

若し剣尖の知れざるものは第七肋骨が左右より相附着する部の下方一寸を
剣尖の端とする。

一、剣尖の中央より臍窩の中央まで、八寸。

一、臍窩の中央より耻骨縫合まで、五寸。

一、大椎(第七頸椎の上際)より尾閼骨端まで、三尺。

一、胸圍(但し乳部) 四尺五寸。

但し婦人は缺盆(鎖骨中央の上際凹陷部)の通にして第五と第六肋骨の間を乳部とす。

一、兩乳の間、八寸。

一、腹圍(但し臍部に於て) 四尺二寸。

一、肩胛骨肩峰突起の端より肘關節まで、一尺七寸。

一、肘尖より腕關節横皺まで、一尺二寸五分。

一、腕關節横皺より中指掌骨の前端まで、四寸。

一、中指第一節の指骨後端より指の尖端迄、四寸五分。

一、大腿骨大轉子より膝關節中央まで、一尺九寸。

一、膝關節の中央より跟骨上端まで、一尺六寸。

一、跟骨上端より足蹠まで、三寸。

一、足蹠の長さ、一尺二寸。

一、足蹠の巾、四寸五分。

以上身體各部の定尺を以て、其各部に用ふる寸を割り出すのである、例へば胸圍四尺五寸なる故、實際の胸圍を四十五分して其れを胸圍に用ふるところの一寸をなし、又は膝關節の中央より跟骨上端まで一尺六寸を十六分して其れを下

腿に用ふる一寸とするが如し。

天

第三章 經穴各個の説明

第一、手太陰肺經 十一穴

〔雲 門〕 禁鍼穴

前胸部にて正中線の傍ら六寸、鎖骨外端の下縁に在り、大胸筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

鎖骨上神經（頸椎神經の枝）

胸肩峰動脈（腋窩動脈の枝）

灸療の應用。

狭心症、咽頭の諸疾患、心臟の諸症、上肢の麻痺、胸背筋の疼痛、咳嗽、感冒。

天

灸十壯乃至二十壯。

中

府

改正孔穴、前腋窩線の内。

胸部第二肋間にて前腋窩線、即ち正中線を距る六寸に在り、庫房（正中線の傍ら四寸）と並ぶ、大胸筋上に當り内部は肺を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の側穿行枝。

胸 肩 峰 動 脈。

鍼灸の應用。

狭心症、咽頭の諸症、肋間神経痛、肋膜炎、気管支カタル、扁桃腺炎、諸熱性病。

灸十壯乃至十五壯。

(天)

府

禁灸穴。

腋窩約紋の前端（極鼻）より尺澤（肘關節前面にて二頭膊筋腱の外縁に當り、動脈の搏動するところ）に向て三寸に在り、三角筋の内縁にて二頭膊筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経。

上膊動脈の分枝。

鍼の應用。

衄血。

但し灸療は禁穴なるも、假死者救急の場合、又癲狂者に應用することありといふ。

狭

白

改正孔穴、上肢部の内。

上膊前面の中央部に在り、即ち尺澤（肘關節前面の中央にて二頭膊筋腱の外縁）より上方五寸にて二頭膊筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神經。
上膊動脈の分枝。

鍼灸の應用。

狭心症、心悸亢進、其他心臟の諸疾患、惡心、嘔吐。
灸十壯乃至二十壯を用ふ。

尺澤

肘關節前面の正中にて二頭膊筋腱の外縁に在り。

此部に分佈する神經、血管。

内上膊皮下神經。

返廻橈骨動脈。

鍼灸の應用。

肺氣腫、氣管支カタルル、肺壞疽、肺勞、肋膜炎、咯血、上枝の神經痛、

筋萎縮、横膈膜痙攣、横膈膜麻痺、膀胱麻痺、ヒステリー。
灸は禁穴ならざるも、此部に大なる皮下靜脈あるを以て用ふることなし。

孔最

腕關節前面の約紋上にて橈骨動脈の搏動する點、即ち大淵より尺澤(肘關節前
面にて二頭膊筋腱の外縁に在り、動脈の搏動するところ)に向て七寸に在り、淺屈指筋
の外縁に相當す。

此部に分佈する神經、血管。

外前膊皮下神經。

橈骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

上肢の神經痛、上肢の麻痺、咽喉カタルル、氣管支カタルル、喘息、咯
血、熱性諸病、痔の諸症。

灸十壯乃至二十壯。

列 缺

兩手の拇指及び示指を交叉して示指頭が橈骨の外側に當る處、即ち橈骨下端の外側凹陥部にて長伸拇筋腱の内後側にあり。

此部に分佈する神經、血管。

外前膊皮下神經（或は筋皮神經）

橈骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

半身不隨、顔面神經麻痺、齒痛、牙間緊急、手掌熱感あるもの、ヒステリー、遺精、淋病、膀胱カタル、顔面及び頸部並に四肢の癱瘓及び蜂窠織炎。

灸十壯乃至二十壯。

但し灸は禁穴にあらざるも此部は大なる皮下靜脈の通路に當るを以て應用最も注意を要す。

（經 渠） 禁灸穴。

前膊前面の下端にて橈骨動脈の搏動するところ、即ち腕關節約紋の上方一寸五分に在り、内橈骨筋腱の外縁にて廻前方筋上に當り、漢方醫法診脈の關部に相當す。

此部に分佈する神經、血管。

外前膊皮下神經。

橈骨動脈の分枝。

鍼の應用。

氣管支カタル、聲門痙攣、食道狹窄、嘔吐、間歇熱。

大 淵

腕關節前面約紋中にて拇指側端に在り、漢方醫法診脈の寸口に相當し、内橈骨筋の腱上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

外前膊皮下神經。

橈骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

上肢の麻痺、同神經痛、肋間神經痛、肺氣腫、氣管支カタル、結膜炎、角膜炎、膀胱麻痺。

灸療は禁穴ならざるも橈骨動脈経路の上に相當するを以て用ふる可し。

(魚 際) 禁灸穴。

拇指第一節と第一掌骨と關節する部の外側にて白肉際に在り、外轉拇指の停

止部に當る。

又此穴には異説あり、腕關節前面の約紋上より前方手掌の方にて橈腕關節部に在りといふ。

此部に分佈する神經、血管。

橈骨神經の淺枝。

指背動脈(橈骨動脈の枝)

鍼の應用。

咳嗽、呼吸困難、咯血、心悸亢進、狭心症、乳腺炎、感冒。

(少 商) 禁灸穴。

拇指橈骨側の爪甲角にあり、長伸拇筋腱の末端に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

固有掌側指神經(正中神經の枝)

指背動脈（橈骨動脈の枝）

鍼の應用。

口内炎、咽頭膿瘍、鵝口瘡、蝦蟇腫、頸部及び顔面の蜂窠織炎、扁桃腺炎、夜盲症、狐憑病、上肢の神経痛。

第二、手陽明大腸經

二十穴

商陽

示指の拇指側にて爪甲角を距る一分許りに在り、總指伸筋腱の末端に接近す。

此部に分佈す神経、血管。

固有掌側指神経（正中神経の枝）

背骨間動脈（橈骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

穴

下齒槽炎、耳鳴、重聽、中耳炎、頸部及び顔面の皮下蜂窠織炎、口内炎、白内障。

灸五壯乃至十壯。

二間

示指背側にて第一節と第二節との關節部約紋上の拇指側白肉際に在り、總指伸筋腱の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

固有掌側指神経（正中神経の枝）

指背動脈（橈骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

顔面神経麻痺、咽頭筋麻痺に因する嚥下困難、衄血、齲齒、眼瞼麥粒腫。灸五壯乃至十壯。

穴

三 間

示指第一節背面後端の拇指側に在り、固有示指伸筋腱の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

橈骨神経の淺枝。

指背動脈(橈骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

下顎の齲齒、口内炎、扁桃腺炎、耳下腺炎、腸疝痛、下痢、腦充血、癩癩。

灸五壯乃至十壯。

但し皮下靜脈あり、注意を要す。

合

谷 改正孔穴、上部の内。

拇指と示指との間に生ずる約紋の尖端に在り、即ち第一掌骨と第二掌骨々間

の中央にて長伸拇筋腱の内縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

橈骨神経の淺枝。

指背動脈(橈骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

顔面及び項部の癰及び疔、扁桃腺炎、衄血、咽頭膿瘍、喉頭カタル、耳聾、耳鳴、齲齒、偏頭痛、舌筋麻痺、諸熱性病、筋萎縮、弱視。

灸十五壯乃至三十壯。

但し妊婦禁鍼穴と云ふ説あり。

陽 谿

腕關節の背面にて橈骨側に偏し長拇指伸筋腱の内縁凹陷中に在り、合谷の上方に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前膊背側皮下神経（橈骨神経の枝）

腕骨背側動脈（橈骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

中風の諸症状、精神異状、結膜炎、角膜翳、耳鳴、重聽、俗に云ふ逆上症、扁桃腺炎、頭瘡、拇指伸筋腱鞘炎。

灸十壯乃至二十壯。

但し大なる皮下静脈あり、注意を要す。

偏 歴

腕關節部背面約紋の橈骨側、即ち陽谿（拇指伸筋腱の内側凹陥部）の上方三寸に在り、總指伸筋腱と拇指伸筋腱との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前膊背側皮下神経（橈骨神経の枝）

橈骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

衄血、齲齒、耳鳴、癲狂、利尿を要する諸症、上肢の神経痛、同麻痺、腱鞘炎。

灸十壯乃至二十壯。

温 溜

前膊背面の橈骨側にて陽谿（腕關節部背面約紋中の橈骨側にて拇指伸筋腱の内側凹陥部）の上方六寸に在り、總指伸筋の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前膊背側皮下神経（橈骨神経の枝）

後 骨 間 動 脈（尺骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

中風(灸五十壯乃至百壯を用ふ)、上膊の神経痛、肩背筋の攣急、口内炎、
神経衰弱、諸熱性病、齒痛。
灸十壯乃至二十壯。

下

廉

前膊背面にて橈骨の外後縁、即ち陽谿(腕關節部背面約紋中にて橈骨側長拇指伸筋腱
内の側凹陥部)の上方八寸に在り、總指伸筋と外橈骨筋との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前膊背側皮下神経(橈骨神経の枝)

後骨間動脈(尺骨動脈)

鍼灸の應用。

中風の諸症狀、肩背攣急、口内炎、乳腺炎、上肢の神経痛、精神異狀、



上

廉

顔面神経麻痺、気管支カタル、肺勞、三叉神経痛。
灸十壯乃至二十壯。

前膊背側面の橈骨側にて曲池(肘を曲げて外側に生ずる約紋の尖端)の下方三寸、膊
橈骨筋と長外橈骨筋との中間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外前膊皮下神経(筋皮神経)の枝。

橈骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

中風、精神異常、肩背攣急、口内炎、上肢の神経痛、膀胱麻痺。
灸十壯乃至二十壯。

三

里

前膊の橈骨側にて橈骨小頭の外下方に在り、即ち曲池(肘を曲げて外側に生ずる約紋の尖端)の下方二寸に當り外橈骨筋上に相當す。

此部に分佈する神經、血管。

外前膊皮下神經(筋皮神經の枝)

橈骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

瘰癧、齒痛、上肢の神經痛、同麻痺、頸筋及び胸筋の攣痛、頸部、顔面、背部及び肩胛部の癰及び疔、同部の蜂窠織炎、半身不隨(灸百壯を用ふ)
灸十五壯乃至三十壯。

曲

池 改正孔穴、上肢部の内。

上膊骨外上髁下端の外側に於て肘關節の外縁に在り、即ち肘を曲げて外側に生ずるところの約紋の尖端に當り、内及び外橈骨筋の起始部に相當す。

此部に分佈する神經、血管。

後上膊皮下神經。

返廻橈骨動脈。

鍼灸の應用。

半身不隨、眼の諸疾患、上肢の神經痛、中耳炎、上肢關節炎、瘰癧、發疹、其他一般の皮膚病、癩病、月經不調、血友病。
灸十壯乃至二十五壯。

肘

膠

上膊骨外上髁の後上方、即ち曲池(肘關節を曲げて外側に生ずる約紋の尖端)より上後方に向て一寸五分に在り、三頭膊筋下部の外縁に當る。

此部に分佈する神經、血管。

後上膊皮下神經(橈骨神經の枝)

返廻橈骨動脈。

鍼灸の應用。

上肢の麻痺、上肢の神経痛、肩胛關節ロイマチス、半身不隨。
灸十壯乃至十五壯。

〔五〕 里 禁鍼穴。

上膊外側にて三頭膊筋の外縁に當り、橈骨神経が上膊骨螺旋條溝を出する部に接近す、即ち曲池(肘關節を曲げて外側に生ずる約紋の尖端)より肩峰突起端に向て引く線上にて曲池より上方三寸のところにあり。

此部に分佈する神経、血管。

外膊皮下神経。

深在膊動脈。

灸療の應用。

上肢の神経痛、心内膜炎、心筋炎、腹膜炎、多發關節ロイマチス、水腫。

灸十壯乃至二十壯。

臂 臑

上肢の前外側にて肩髀(肩峰突起尖端の外側にて上肢を舉ぐれば陥凹を生ずるところ)より曲池(肘關節を曲げて外側に生ずる約紋の尖)に向て一尺、又曲池よりは肩髀に向て七寸に在り、二頭膊筋の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外上膊皮下神経(腋窩神経の枝)

後廻旋上膊動脈。

鍼灸の應用。

中風、肩胛筋麻痺、頸部諸膿瘍、言語不能。

灸十壯乃至二十壯。

但し此部は頭静脈の経路に接近するを以て用ふるに注意を要す。

肩

偶 改正孔穴、上肢部の内。

肩胛骨肩峰突起の尖端にて上肢を挙げれば陥凹を生ずるところ、即ち肩峰突起の少しく外下方に在り、三角筋起始部の中央に當る。

此部に分佈する神経、血管。

鎖骨 上 神經。

後廻旋上膊動脈。

鍼灸の應用。

中風、上肢の神経痛、同麻痺、筋萎縮、頭痛、後頭神経痛、肩胛筋攣痛。

灸十壯乃至二十壯。

巨 骨

肩胛骨肩峰突起と鎖骨外端と關節する部の間(内緣)に在り、三角筋の上縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

鎖骨 上 神經。

横肩胛動脈の肩峰枝。

鍼灸の應用。

下顎の齒痛、上肢の麻痺、小兒痙攣、咯血、肩胛筋レウマチス。

灸十壯乃至二十壯。

天

鼎 改正孔穴、頸部の内。

喉頭結節の外方にて胸鎖乳嘴筋の前縁に在り、前頸部正中線の外方四寸にて潤頸筋上に當る、内部は總頸動脈及び迷走神経の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

下頸皮下神経。

上行項動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

嚥下困難、舌筋麻痺、扁桃腺炎、咽頭諸症。

灸五壯乃至十壯。

扶突

甲狀軟骨の後外方、下顎髁の下部にて胸鎖乳嘴筋の前縁に在り、即ち鎖骨中央より上方三寸にて、前頸部正中線を距る三寸に當る、内部は總頸動脈及び迷走神経の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

下頸皮下神経。

上行項動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

喘息、肺氣腫、呼吸困難、舌筋麻痺。

灸は禁穴にあらざるも總頸動脈及び迷走神経の経過に接近するを以つて炷灸を禁ず。

禾膠 禁灸穴。

上口唇人中溝の中央なる水溝の兩傍五分に在り、即ち上顎骨犬齒窩部に近く犬齒筋の起始部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経(三叉神経第二枝上顎神経の枝)

上唇動脈(外頸動脈の枝)

鍼の應用。

咬筋痙攣、鼻腔の諸疾患、耳下腺炎。

〔迎〕

香 禁灸穴、改正孔穴、顔面部の内。

鼻孔の傍ら五分にして鼻唇溝中に在り、即ち上顎骨犬齒窩の上方にて方形上唇筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経（三叉神経第二枝の枝）或は顔面神経頰枝の枝。

外頸動脈の枝。

鍼の應用。

鼻腔の疾病、衄血、皮下蜂窠織炎。

第三、足陽明胃經

四十六穴

〔承〕

泣 禁鍼穴。

下眼瞼縁の正中より下方七分許り、即ち下眼窠縁の少しく下方にて眼輪匠筋の下縁に在り。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経及び顔面神経（内部の筋に分佈す）

下眼窠動脈（内頸動脈の枝）

灸療の應用。

眼球充血、結膜炎、角膜炎、其他眼病諸症、耳聾、耳鳴、顔面神経麻痺。

但し此穴は或は又禁灸穴とする説もあり。

灸は顔面なるに因り禁穴ならざるも、炷灸することなし。

四

白 改正孔穴、顔面部の内。

下眼窠縁の中央より一寸許り下方に在り、方形上唇筋上にて下眼窠神経が下眼窠孔を出づる邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経。

下眼窠動脈(内顎動脈の枝)

鍼灸の應用。

角膜翳、眼球の疼痛、頭痛、眩暈、顔面神経麻痺。

灸は顔面なる故應用することなし。

巨

膠 改正孔穴、顔面部の内。

鼻孔の外方八分許りの點に在り、方形上唇筋上にて上顎第一小白の齒齦部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経(三叉神経第二枝の枝)

下眼窠動脈(内顎動脈の枝)

鍼灸の應用。

齲齒、三叉神経痛、鼻カタル、結膜炎、角膜炎。
灸は顔面なる故應用することなし。

地

倉 改正孔穴、顔面部の内。

口角の傍ら四分に在り、口輪匠筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経(三叉神経第二枝の枝)

外顎動脈の枝。

鍼灸の應用。

顔面神経麻痺、舌筋麻痺、聲嘶。
灸は顔面なるに因り應用することなし。

大

迎 改正孔穴、顔面部の内。

下顎隅の前下方一寸五分にて咬筋附着部の前縁に在り、即ち下顎第二大白歯の下部にて外顎動脈の通路に當る。

此部に分佈する神経、血管。

三叉神経第三枝の枝。

外顎動脈の枝。

鍼灸の應用。

顔面部の瘰癧、舌筋麻痺、下顎齲齒、瘰癧、耳下腺炎。

灸は成る可く用ひざるを良とす。

頰

車 改正孔穴、顔面部の内。

下顎隅の後縁に在り、咬筋の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

大 耳 神 經。

咬筋動脈(内顎動脈の枝)

灸五壯乃至十壯。

(下)

關 改正孔穴、顔面部の内、禁灸穴。

耳珠の前、即ち顴骨弓の下縁にて咬筋上に在り、下顎關節の前端に當る。

此部に分佈する神経、血管。

耳 聾 聾 神 經 (三叉神経の第三枝の枝)

横顔面動脈(淺顎動脈の枝)

鍼の應用。

耳鳴、耳聾、齲齒、顔面神経麻痺。

(頭)

維 改正孔穴、顳額部の内、禁灸穴。

前頭髮際の外上角、即ち前頭結節の上外方に在り、神庭(頭部正中線にて前髮際より入る五分)の傍ら四寸五分、内部は直ちに帽狀腱膜を存す。

此部に分佈する神経、血管。

耳 頰 頰 神 經 (三叉神経の第三枝)

淺頰頰動脈の前枝。

鍼の應用。

頭痛、腦充血、眼球疼痛、結膜炎、弱視。

(人 迎) 禁灸穴。

前頸部にて甲状軟骨上縁の正中より外方一寸五分、胸鎖乳嘴筋の前縁に在り、迷走神経及び頸動脈及び同静脈の経路の邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

下頸皮下神経 (頸神經叢の枝)

上甲状腺動脈の分枝。

鍼の應用。

水 突

咽頭カタル、扁桃腺炎、癰癤。

但し鍼、深く刺すを禁す。

前頸部にて人迎 (甲状軟骨上縁の正中より外方一寸五分にて胸鎖乳嘴筋の前縁) の下方一寸に在り、胸鎖乳嘴筋の前縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下頸皮下神経。

上甲状腺動脈の分枝。

鍼灸の應用。

喘息、氣管支カタル、百日咳、呼吸困難、喉頭諸疾患、肺勞。
灸は總頸静脈と接近するを以つて應用を禁す。

氣 舍

前頭部にて胸鎖乳嘴筋の二頭が鎖骨内端と胸骨より起始する其兩頭間に在り、
潤頸筋上にて内部は頸動脈、同静脈、迷走神経の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

下頸皮下神経。

下甲状腺動脈。

鍼灸の應用。

咽頭及び喉頭の諸炎症、扁桃腺炎、嚥下困難、肩胛筋の痙攣、感冒。
灸は迷走神経頸静脈等に接近するを以つて應用を禁す。

〔缺〕 盆〕 禁鍼穴。

前胸部正中線を距る四寸の外方にて鎖骨上際の陷凹中に在り、潤頸筋上に當
り内部は膊神経叢に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

鎖骨上神経。

鎖骨下動脈の分枝。

灸療の應用。

喘息、肋膜炎、気管支カタル、瘰癧、頸筋レウマチス。
灸は膊神経叢に接近するを以て應用することなし。

氣 戸 改正孔穴、胸部乳線の内。

第一肋間にて乳線に在り、又曰ふ、鎖骨の下縁にて前胸部正中線を距る四寸
に在り、大胸筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

鎖骨上神経。

第一肋間動脈(上肋間動脈の枝)

鍼灸の應用。

肋膜炎、氣管支カタル、喘息、百日咳、胸筋レウマチス。
灸は成るべく用ひざるを良とす。

庫

房 改正孔穴、胸部乳線の内。

前胸部乳線(正中線を距る四寸)にて第二肋間に在り、大胸筋上にて内部は肺を存す、但し左は心臟の上縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

前肋間動脈。

鍼灸の應用。

肋膜炎、肺氣腫、呼吸困難、肋間神経痛。

灸五壯乃至十五壯。

屋

翳 改正孔穴、胸部乳線の内。

前胸部第三肋間にて乳線(正中線を距る四寸)に在り、大胸筋上に當る、内部は肺を存し左は心臟の上縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

前肋間動脈。

鍼灸の應用。

肋間神経痛、咳嗽、咯痰(血液及び膿を混するもの)、肋膜炎、氣管支カタル。

灸五壯乃至十五壯。

膺

窓 改正孔穴、胸部乳線の内。

胸部乳線(正中線を距る四寸)にて第四肋間に在り、大胸筋上に當る、内部は左右共に肺を存す、但し左は心臟に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

前肋間動脈。

鍼灸の應用。

肋間神経痛、乳線炎、肺氣腫、腸疝痛。

灸五壯乃至十五壯。

但し左は心臟に接近するを以て應用することなし。

(乳)

中) 禁灸穴。

第五肋間にて乳線(正中線を距る四寸)に在り、乳嚙頭上にて大胸筋及び乳腺上に當る、内部は左右共に肺を存し、左は心臟の外縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管、

肋間神経の前穿行枝。

前肋間動脈。

鍼の應用。

禁鍼穴にあらざるも應用することなし。

乳

根 改正孔穴、胸部乳腺の内。

第六肋間にて乳線(正中線を距る四寸)に在り、大胸筋の下縁にて乳腺に接近す、内部は右は肺を存し、肝臓に接近し左も肺を存すれども心臟尖端の外縁に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

前肋間動脈。

鍼灸の應用。

霍亂、腓腸痙攣、乳腺炎、食道狹窄。

左は心臓に接近するを以つて應用することなし。

不

容 改正孔穴、腹部第二側線の内。

胸骨劍狀突起尖端の下方一寸五分、即ち巨闕（腹部正中線にて鳩尾より一寸下方にあたる）の傍ら二寸に在り、直腹筋上にて第八肋骨附着部に當る、内部は胃部に相當す、但し右は肝臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

胃痛、胃擴張、黃疸、鼓脹、腸疝痛、肝臓の諸疾患、心悸亢進、横膈膜痙攣、腸寄生蟲。
灸十壯乃至十五壯。

承

滿 改正孔穴、腹部第二側線の内。

胸骨劍狀突起端の下方二寸五分の點、即ち上脘（腹部正中線）と並び其外方二寸に在り、外斜腹筋上にて内部は胃及び横行結腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

胃カタル、腸カタル、腸疝痛、黃疸、鼓脹、嚥下困難。
灸十壯乃至二十壯。

梁

門 改正孔穴、腹部第二側線の内。

腹部正中線にて胸骨劍狀突起端より下方三寸五分、即ち中脘（鳩尾より下方三寸）の傍ら二寸に在り、直腹筋外縁に當り、内部は小腸の上部及び横行結腸の邊

に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

前腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸の拘攣、腸疝痛、胃痙攣、胃擴張、消化不良、胃カタル、腸カタル、脱肛。

灸十壯乃至二十壯。

但し妊婦の灸灸を禁ず。

關

改正孔穴、腹部第二側線の内

腹部正中線にて臍(神關)の上方三寸の點、即ち建里の傍ら二寸にあり、内部は小腸を存し、外斜腹筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

胃痙攣、腸カタル、腸疝痛、脱肛、水腫、遺尿、諸熱性病。

灸十壯乃至二十壯。

太

乙 改正孔穴、腹部第二側線の内

腹部正中線にて臍(神關)の上方二寸の點、即ち下脘の傍ら二寸に在り、内部は小腸を存し、外斜腹筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸カタル、心窩苦悶、脚氣衝心、腸疝痛、脱肛、癲狂。

灸十壯乃至二十壯。

但し妊婦の灸療を禁す。

滑肉門

腹部正中線にて臍(神闕)の上方一寸の點、即ち水分の傍ら二寸に在り、内部は小腸を存し、外斜腹筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

胃痙攣、腸疝痛、脱肛、吐血、舌下膿瘍、舌痛。

灸十壯乃至二十壯。

天

樞 改正孔穴、腹部第二側線の内。

腹部にて正中線を距る二寸、臍(神闕)と竝ぶところに在り、外斜腹筋上にて直腸筋の外縁に當る内部は小腸を存す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經の前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

霍亂、胃擴張、胃アトニー、腸カタル、大腸カタル、腸疝痛、月經不調、婦人不妊症、子宮諸病、淋病。

又は溢死、溺死等の救急に用ふ。

灸十壯乃至三十壯。

但し妊婦は禁灸穴とす。

外

陵 改正孔穴、腹部第二側線の内。

腹部正中線にて臍(神闕)の下方一寸、即ち陰交の傍ら二寸に在り、内側は小腸を存し、外斜腹筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経(腰神経叢の枝)

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

副睪丸炎、精系瘰癧、子宮瘰癧、月經痛、腹筋瘰癧、腸疝痛。

灸十壯乃至二十壯。

太

巨 改正孔穴、腹部第二側線の内

腹部正中線にて臍(神闕)の下方三寸、即ち石門の兩傍二寸に在り、外斜腹筋上

にて内側は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

神経衰弱、陰萎、腸カタル、腸の拘攣、尿閉。

灸十壯乃至二十壯。

水

道 改正孔穴、腹部第二側線の内。

腹部正中線にて臍(神闕)の下方三寸、即ち關元の傍ら二寸に在り、直腸筋上に在り、内側は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

膀胱カタル、尿閉、副睪丸炎、子宮痙攣、子宮内膜炎、月經痛、喇叭管炎、精系痙攣、腸痙攣、鼓脹。

灸十壯乃至二十壯。

歸來

腹部正中線にて臍(神門)の下方四寸、即ち中極の傍ら二寸に在り、外斜腹筋上にて内部は腸を存し、膀胱に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

精系痙攣、副睪丸炎、睪丸炎、陰萎、陰莖神経痛、子宮痙攣、腔痙攣、腔カタル、子宮内膜炎、子宮周圍炎、喇叭管炎。
灸十壯乃至二十壯。

〔氣衝〕禁鍼穴。

腹部正中線にて臍(神門)の下方五寸、即ち曲骨の傍ら二寸にして耻骨の上縁に在り、直腹筋の停止部に當り内部は膀胱及び子宮の外邊に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

淺廻旋腸骨動脈。

灸療の應用。

急痲、陰萎、不妊症、子宮筋腫、バルトリン氏腺炎、包皮灸、腹筋痙攣。
灸五壯乃至十壯。

但し鍼の應用差支へなしといふ説あり。

(髀)

關) 禁灸穴。

大腿前側の正中線にて膝蓋骨上縁より上方へ一尺三寸に在り、直股筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前股皮下神經(股神經の枝)

外廻旋股動脈の上枝。

鍼の應用。

下肢の神經痛。半身不隨、股關節炎、腸疝痛、鼓脹。

灸は禁穴なるも脚氣に用ふることありと云ふ。

(伏)

兔) 禁灸穴。

鼠蹊溝と膝蓋骨上縁との中央にて大腿前面の中程より少しく外方に偏するこ

ころに在り、四頭股筋の最も膨隆する部、即ち外大股筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前股皮下神經(股神經の枝)

外廻旋股動脈(深在股動脈の枝)

鍼の應用。

半身不隨、下肢の痙攣、肺勞、蕁麻疹。

但し禁灸穴なるもこれを用ひて差支へなしと云ふ説あり。

(陰)

市) 禁灸穴。

大腿の前外側にて伏兔(髀關は大腿前側の正中線にて膝蓋骨上縁より上方へ一尺二寸に在り、其髀關より下方三寸に伏兔が在る)より三里(膝の外下方にて膝蓋骨の下三寸、腓骨小頭の内下方五分許り)に向て三寸、外大股筋上に在り。

此部に分佈する神經、血管。

外股皮下神経（股神経の枝）

外廻旋股動脈の下行枝。

鍼の應用。

腸拘攣、腸疝痛、腹水、下肢の麻痺、下腿の厥冷するもの。

梁 丘

大腿前外側にて大腿骨外踝の上方二寸に在り、即ち髌關（大腿前側の正中にて膝蓋骨の上方約一尺二寸に在り）より三里（膝關節の外下方にて膝蓋骨の下三寸、腓骨小頭の内下方五分許り）に向て引く假線上にて髌關より下方一尺に當るところと云ふ、四頭股筋下部の外縁に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

外股皮下神経（股神経の枝）

外廻旋股動脈。

鍼灸の應用。

半身不隨、膝關節炎、下肢の麻痺、乳腺炎、下痢。

灸十壯乃至二十壯。

但し妊婦の灸灸を禁す。

（續）

鼻）禁灸穴。

膝關節の外下方にて膝を曲げて膝蓋骨の下外方に生ずる凹陷中に在り、即ち大腿骨頭と脛骨頭と相觸るゝところにして膝蓋固有靭帶の下外側に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外腓腸皮下神経。

外膝關節動脈（前脛骨動脈の枝）

鍼の應用。

膝關節炎、下腿の麻痺。

膝

眼 胃經に屬す。

内及び外膝眼あり、即ち膝蓋骨下際にて膝蓋靭帯の内側に在るものを内膝眼、外側に在るものを外膝眼と云ふ。

此部に分佈する神經、血管。

腓骨神經。

膝關節動脈(膝關節動脈の枝)

鍼灸の應用。

脚氣、下腿の運動麻痺、膝關節炎。

灸十壯乃至二十壯。

三

三里 改正孔穴、下肢部の内。

膝關節の下外方にて膝蓋骨の下三寸、腓骨小頭の内下方五分許りの處に在り、長總趾伸筋の起始部に相當し、前脛骨動脈及び腓骨神經が長總趾伸筋を穿つ

て前に出づる部に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

腓骨神經交通枝(腓骨神經の枝)

前脛骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

一切の諸疾患に効ありと云ふ。

就中、胃及び腸の疾患、神經衰弱、ヒステリー、脚氣、癲狂、鬱幽症、總べて逆上する諸症、扁桃腺炎、乳腺炎、下肢の麻痺、下肢の神經痛。

灸十壯乃至二十壯。

但し小兒灸を禁す。

巨虚の上廉

下腿の前外側にて三里(膝關節の外下方、即ち膝蓋骨の下三寸にて腓骨小頭の内方五分許り)

の下方三寸、少しく脛骨に偏する處に在り、長總趾伸筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

腓骨神經交通枝(腓骨神經の枝)

前脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

消化不良、肺勞、肺氣腫、脚氣、水腫、脊髓勞。

灸十壯乃至二十壯。

(條

口) 禁灸穴、

下腿の前外側にて三里(膝關節の外方にて膝蓋骨の下三寸、腓骨小頭の内下方五分許り)の
下方五寸に在り、前脛骨筋と長總趾伸筋との間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

外腓腸皮下神經(脛骨神經の枝)

前脛骨動脈の枝。

鍼の應用。

脚氣、下肢の麻痺、胃痙攣、腸疝痛、腸カタル。

巨虚の下廉

下腿の前外側にて巨虚の上廉(膝關節の下外方三寸にて腓骨小頭の内方五分許りの點、即ち三里の下方三寸にて少しく脛骨に偏するところ)の下方三寸に在り、長總趾伸筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

腓骨神經交通枝(腓骨神經の枝)

前脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

急性胃カタル、腸疝痛、膽石痛、腎石痛、下肢の關節レウマチス、

乳癢、感冒。

灸十壯乃至二十壯。

豐隆

下腿の外側にて外踝の直上七寸にあり、長腓骨筋上にて巨虚の下廉と並び其外方に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外腓腸皮下神経（脛骨神経の枝）

前脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

癲癩、霍亂、腸疝痛、搖擲、ヒステリー、便秘、尿閉、四肢の水腫、

癲狂。

灸十壯乃至二十壯。

解谿

足關節の前側にて第二趾と第三趾との間の通りにて前脛骨筋の腱と長總趾伸筋腱との間にて十字靭帶上に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経。

跗骨動脈（前脛骨動脈の分枝）

鍼灸の應用。

頭痛、眩暈、角膜翳、鼻の諸疾患、間歇熱、足部の神経痛、下肢筋レ

ウマチス、下肢の筋炎、同部蜂窠織炎、癲癩。

灸十壯乃至十五壯。

衝陽

第二蹠骨と第三蹠骨との通りにて楔状骨と關節する部にあり、即ち足背の最

高部にて長伸躡筋腱と短伸躡筋腱との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経（腓骨神経の枝）

外跗骨動脈（前脛骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

霍亂、胃腸カタル、半身不隨、腸疝痛、盜汗。

灸五壯乃至十壯。

（陷）

谷）禁灸穴。

足背第二趾蹠關節の外後縁に在り、短總趾伸筋の腱の外方に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経（腓骨神経の枝）

背骨間動脈（足蹠動脈の枝）

鍼の應用。

間歇熱、腸疝痛、鼓脹、盜汗、腹水、慢性腹膜炎、ヒステリー。

内

庭

足背にて第二趾第一節前端の外側に在り、長總趾伸筋及び短總趾伸筋の腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経（腓骨神経の枝）

背骨間動脈（足蹠動脈の枝）

鍼灸の應用。

顔面神経麻痺、三叉神経麻痺、齒齦炎、衄血、脚氣、ヒステリー、牙關緊急。

灸五壯乃至七壯。

應 兌

次趾外側にて爪甲角に近きところに在り、短總趾伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神経、血管、

深腓骨神経（腓骨神経の枝）

背骨間動脈（足蹠動脈の枝）

鍼灸の應用。

黄疸、肝臟諸症、顔面神経麻痺、腹水、齒齦炎、口内炎、鼻カタル、

下肢の蜂窠織炎。

灸五壯乃至七壯。

第四、足太陰脾經

二十一穴

(隠)

白) 禁灸穴。

躡趾背面の内側にて爪甲角に接近する部に在り、長伸躡筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経（腓骨神経の枝）

第一背骨間動脈（足背動脈）

鍼の應用。

下肢の麻痺、月經不調、胃部苦悶、嘔吐、急性腸カタル、腹膜炎、

子宮痙攣、耳下腺炎。

太 都

躡趾根の後内側、即ち第一趾蹠關節の少しく前の白肉際に在り、外轉躡筋腱の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経（腓骨神経の枝）

總趾蹠動脈。

鍼灸の應用。

胃痙攣、嘔吐、腸拘攣、心内膜炎、多發關節炎、感冒。
灸五壯乃至七壯。

太白

足背の内側にて第一蹠骨の前端膨隆部の後白肉際に在り、外轉踴筋停止部の後に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

總趾蹠動脈。

鍼灸の應用。

坐骨神経痛、下肢の筋レウマチス、胃痛、消化不良、霍亂、慢性腹膜

炎、心内膜炎。

灸五壯乃至七壯。

公孫

足背内側にて第一蹠骨後端の白肉際に在り、外轉踴筋の上縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

外附骨動脈(足背動脈の枝)

鍼灸の應用。

霍亂、大腸カタル、下血、脱肛、胃痛、急性胃カタル、肝臟諸疾
患、黄疽、心囊炎、感冒、腎盂炎。
灸五壯乃至十壯。

商丘

足の内踝の直前にて足關節約紋中に在り、前脛骨筋と長伸躡筋の中間にて十字靭帯の下縁に在り、サフエナ神経の経路の邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

内跗骨動脈(足背動脈の枝)

鍼灸の應用。

小兒麻痺、足關節炎、跗骨間關節炎、脊髓勞、脊髓炎、腸疝痛、腸出血、下腹痙攣、腹筋麻痺、消化不良、黃疸、ヒステリー、腔痙攣。

灸十壯乃至二十壯。

三 陰 交 改正孔穴、下肢部の内。

足内踝の上方三寸にて脛骨の後縁に在り、短腓骨筋の上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

急性胃腸カタル、慢性胃腸疾患、腸疝痛、攝護腺炎、男子生殖器障
碍、陰萎、過房、月經不調、子宮内膜炎、子宮周圍炎、喇叭管炎、淋
病、腓腸痙攣、下肢の神経痛、濕疹。

灸十壯乃至三十壯。

(漏 谷) 禁灸穴。

下腿内側の中央にて脛骨内縁より少しく後方に偏し、比目魚筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後脛骨動脈の枝。

鍼の應用。

脊髓勞、狭心症、脚氣、腓腸痙攣、失精、消化不良。

地機

下腿内側にて脛骨の後内縁、中央より稍上に在り、即ち漏谷（下腿内側の中央にて脛骨内縁より少しく後方に偏す）の上方二寸にて腓腸筋の内側に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後脛骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

水腫、尿不利の諸症、失精、膀胱カタル、子宮諸病。

灸十壯乃至二十壯。

（陰陵泉） 禁灸穴、改正孔穴、下肢部の内。

下腿上部の内側にて脛骨内關節髁の後内方の直下に在り、腓腸筋内頭の起始部にしてサフエナ神経経路の邊に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

内膝關節動脈（膝關節動脈の枝）

鍼の應用。

霍亂、腸疝痛、淋病、尿失禁、膾カタル。

血海

大腿内側の下端、即ち大腿骨内上髁の上際にて半腱様筋及び半膜様筋の腱が脛骨結節に附着する部の前上方に生ずる凹陷中に在り。

此部に分佈する神経、血管。

前股皮下神経（股神経の枝）

上膝關節動脈(膝關節動脈の枝)

鍼灸の應用。

月經不調、遺尿、尿閉、子宮出血、子宮内膜炎、子宮周圍炎、睪丸炎、
龜頭炎、腹膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

〔箕〕

門〕禁鍼穴。

大腿内側の中央にて血海(膝關節内側の上方にて半膜様筋及び半腱様筋の腱が脛骨結節に
附着する部の前上方に生ずる凹陥中に在り)の上方六寸に在り、薄股筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前股皮下神経(股神経の枝)

股動脈の分枝。

灸療の應用。

遺尿、遺精、陰萎、副睪丸炎、子宮内膜炎。
灸十壯乃至二十壯。

衝

門 改正孔穴、腹部の内。

腸骨前上棘の内下方五寸許りにて鼠蹊部皺溝の外端に近きところ、即ち曲骨
(下腹部正中線にて恥骨縫合の上縁に當り、臍の下方五寸)の傍ら三寸五分に在り、外斜
腹筋及びポールバルト氏靱帯の下にて外股輪の邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

腰鼠蹊神經。

淺廻旋腸骨動脈。

鍼灸の應用。

癲狂、腸疝痛、子宮痙攣、膻炎、精系痙攣、四肢の厥冷するもの、酒
客譫忘。

灸は股動脈に接近するを以て應用することなし。

府 舍

下腹部にて臍窩(神門)の下方四寸なる點(中極)の傍ら三寸五分に在り即ち大横(臍と並び其外方三寸五分)の下方四寸に當り外斜腹筋上にて内鼠蹊輪の外邊に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

腸骨下腹神經。

淺腹壁動脈(股動脈の枝)

鍼灸の應用。

腸疝痛、霍亂、脾腫(マラリア、白血病等より來る)、精系痙攣。

灸十壯乃至二十壯。

結 改正孔穴、側腹部の内。

腹

下腹部にて臍窩(神門)の下方三寸なる點(關元)の傍ら三寸五分に在り、即ち大横(臍と並び其外方三寸五分)の下方三寸に當り、外斜腹筋上にて内部は右は盲腸部、左はS狀部に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

腸骨下腹神經。

淺腹壁動脈(股動脈の枝)

鍼灸の應用。

心臟諸疾患、脚氣、腹膜炎、惡疽、陰萎、陰莖神經痛。

灸十壯乃至二十壯。

大 横 改正孔穴、腹部側線の内。

臍窩(神門)より趾骨縫合上際(曲骨)までの寸法を取り、其長さの一端を衝門(下腹と大腸との間の皺溝、即ち鼠蹊溝にて其中央に在り、腹部正中線の傍ら三寸五分に相當す)に

當て真直ぐに上方に向つて盡るところに點す、それが大横に當る、即ち臍窩の傍ら三寸五分に當り、外斜腹筋上にて、内部は小腸を存す。

但し改正孔穴にては乳線(正中線を距る四寸)にて臍の傍らに在りと云ふ。

此部に分佈する神経、血管、

肋間神経側穿行枝。

後肋間動脈。

鍼灸の應用。

腸カタル、腸痙攣、便秘、鬱幽症、ヒステリー、多汗症。

灸十壯乃至二十壯。

(腹)

裏) 改正孔穴、側腹部の内、禁灸穴。

腹部正中線にて臍(神闕)上三寸、或は鳩尾(胸骨鉸狀突起端より下方五分)の下方四寸に當る點、即ち建里の傍ら三寸五分に在り、外斜腹筋上にて第九肋骨の附

着部に相當す、内部は左は胃、右は肝臓の下縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

下腹壁動脈。

鍼の應用。

消化不良、胃の諸疾患、腸出血、膽石痛。

食 養

胸部第六肋間にて正中線を距る六寸、即ち前腋窩線に在り、前大鋸筋上にて内部は肺を存し、右は肝臓、左は心臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の側穿行枝。

長胸動脈(腋窩動脈の枝)

鍼灸の應用。

肋間神経痛、胸筋レウマチス、肋膜炎、気管支タタール、肺氣腫。
灸七壯乃至十壯。

天 谿

胸部第五肋間にて正中線を距る六寸、即ち前腋窩線に在り、前大鋸筋上にて
内部は肺を存し、左は心臟に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の側穿行枝。

長 胸 動 脈。

鍼灸の應用。

胸筋レウマチス、肋間神経痛、咳嗽ある諸症、乳腺炎。
灸七壯乃至十壯。

胸 郷

胸部第四肋間にて正中線を距る六寸、即ち前腋窩線に在り、大胸筋上にて内
部は肺を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

長 胸 動 脈 (腋窩動脈の枝)

鍼灸の應用。

肋間神経痛、胸筋レウマチス、咳嗽、嚥下困難、乳腺腫痛。
灸七壯乃至十壯。

(周 榮) 禁灸穴。

胸部第三肋間にて正中線を距る六寸、即ち前腋窩線に在り、大胸筋上にて、
内部は肺を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

長 胸 動 脈 (腋窩動脈の枝)

鍼の應用。

胸筋レウマチス、肋間神経痛、氣管支カタール、乳腺炎。

大 包

側胸部にて腋窩の中央より第十二肋骨の前端に向て引く線の方角にて第六肋間(中腋窩線に相當す)に在り、前大鋸筋上にて、内部は肺を存す、但し右は肝臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

長 胸 動 脈 (腋窩動脈の枝)

鍼灸の應用。

胸筋レウマチス、氣管支カタール、胃部攣痛、膀胱麻痺、肋膜炎。

灸七壯乃至十壯。

第五、手少陰心經 九 穴

〔極 泉〕 禁鍼穴。

腋窩約紋の前端に在り、大胸筋停止部の後下縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

胸 肩 峰 動 脈 (腋窩動脈の枝)

灸療の應用。

肋間神経痛、胸筋レウマチス、腋臭、鬱幽症。

灸十壯乃至二十壯。

〔青〕

靈〕禁鍼穴。

上膊前内側にて少海（肘關節前面約紋の内端）の上方三寸に在り、二頭膊筋の内縁にて上膊動脈及び正中神経の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経。

下尺側副動脈（上膊動脈の枝）

灸療の應用。

上枝の神経痛、肩背筋攣痛、肋間神経痛、三叉神経痛、頭痛、黄疽。
灸は上膊動脈及び正中神経に接近するを以つて成る可く應用せざるを
良とす。

少

海

肘關節前面にて内側に生ずる約紋の尖端に在り、即ち上膊骨内上髁の下端前面に當る、内膊筋停止部の内縁に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経。

返廻尺骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、肩胛筋攣痛、腋窩腺炎、肋間神経痛、齒痛、頭痛、癲狂、
灸十壯乃至十五壯。

但し皮下静脈を顧慮すべし。

靈

道

前膊前面にて尺骨側に偏し腕關節約紋の上方一寸五分、長總指屈筋腱の尺骨側にて廻前方筋上に在り、内部は尺骨神経及び尺骨動脈の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

内前膊皮下神経の掌側枝。

尺骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

舌筋麻痺、ヒステリー、上肢の痙攣、同神経痛、狭心症、心内膜炎、

肋間神経痛。

灸十壯乃至二十壯。

通 里

前膊前面にて尺骨側に偏し腕關節約紋より上方一寸、内尺骨筋腱の内側に在り、尺骨動脈及び尺骨神経の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

内前膊皮下神経の掌側枝。

尺骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、上肢の痙攣、書癩、扁桃腺炎、ヒステリー、子宮出血、遺尿、舌筋麻痺、眼球充血、頭痛、眩暈、神経性心悸亢進。

灸十壯乃至十五壯。

陰 郛

前膊前面にて尺骨側に偏し腕關節約紋の上方五分に在り、内尺骨筋腱の内側にて廻前方筋上に當る、内部は尺骨動脈及び尺骨神経の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

内前膊皮下神経の掌側枝。

上 腹 壁 動 脈。

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、扁桃腺炎、衄血、吐血、ヒステリー、遺尿、子宮出血。
灸十壯乃至二十壯。

神門

腕關節前面約紋の内端にて尺骨下端と豆骨との間に在り、内尺骨筋の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経の枝。

尺骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、咽頭カタル、扁桃腺炎、鼻カタル、咯血、吐血、心悸亢進、癲狂、ヒステリー、不眠症、便秘。
灸十壯乃至二十壯。

但し皮下静脈を顧慮すべし。

少府

手掌にて中央より稍小指側に偏するところ、即ち指を屈して環指及び小指頭が掌に觸るゝところの間に當り、第五掌骨基底前面の拇指側に在り、對拇小指筋の内縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経の淺枝。

淺掌側動脈(橈骨動脈の分枝)

鍼灸の應用。

中風、上肢の神経痛、尿閉、遺尿、糖尿病、蹠瘻變。婦人陰部搔痒症、心悸亢進症。
灸は應用することなし。

少 衝

小指背面の拇指側爪甲角に在り、總指伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神經、血管。

固有掌側指神經(尺骨神經の枝)

背骨間動脈(橈骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

腦充血、ヒステリー、上肢の神經痛、肋間神經痛、心内膜炎、心囊炎、

結膜炎、黃疸。

灸五壯乃至七壯。

第六、手太陽小腸經 十九穴

少 澤

小指背面の尺骨側爪甲角に在り、總指伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神經、血管。

固有掌側指神經(尺骨神經の枝)

背骨間動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、上肢の神經痛、項背筋攣痛、頭痛、眩暈、間歇熱。

灸五壯乃至七壯。

前 谷

小指第一節背側前端的の尺骨側に在り、總指伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神經、血管。

尺骨神經の手背枝。

指背動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

耳鳴、耳孔閉塞、咽喉カタルル、扁桃腺炎、乳汗分泌不足、癩癧、上肢の神経痛。

後 谿

小指第一節基底にて尺骨側、即ち第五掌指關節の外側に在り、總指伸筋腱の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経の手背枝。

指 背 動 脉 (尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

癩癧、衄血、耳聾、結膜炎、角膜翳、上肢の筋炎、上肢の神経痛。
灸五壯乃至十壯。

但し皮下静脈を顧慮すべし。

腕 骨

手指小指の通りにて第五掌骨後端の外縁に在り、外尺骨筋の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経手背枝。

腕骨背側動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

前膊の麻痺、上肢の神経痛、肘關節炎、腕關節炎、上肢の關節ロイマチス、半身不隨、小兒麻痺。
灸五壯乃至十壯。

陽 谷

腕關節部背面の約紋中にて小指側に在り、即ち尺骨下端なる莖狀突起直下の

凹陥部にて外尺骨筋腱の小指側に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経の手背枝。

腕骨背側動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

耳鳴、耳聾、腦膜炎、中耳炎、上肢の麻痺、上肢の神経痛、口内炎、

齒齦炎、頸部及び顔面の蜂窠織炎、癲狂、手指關節炎。

灸十壯乃至二十壯。

但し皮下靜脈を顧慮すべし。

養

老

腕關節背面に生ずる約紋中にて小指側に偏するところ(陽谷)より上方一寸に在り、外尺骨筋腱の小指側に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

前膊背側皮下神経(橈骨神経の枝)

前骨間動脈の穿行枝(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、同麻痺、腦充血、頭痛、弱視、結膜炎、肩胛關節レウ

マチス、白癩。

灸十壯乃至二十壯。

支

正

腕關節背面に生ずる約紋中にて尺骨側に偏する處、即ち陽谷の上方五寸に在り、尺骨の外縁と内尺骨筋との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経の尺骨枝。

後骨間動脈（尺骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、同麻痺、腦充血、頭痛、眩暈、癲狂、感冒、諸熱性病。
灸十壯乃至二十壯。

小海

肘關節内側にて上膊骨下端と尺骨鶯嘴突起側縁との間に在り、内尺骨筋起始部にて尺骨神経の経路に接近す。此部を指彈すれば小指に感ず。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経。

返廻尺骨動脈（尺骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

腋窩腺炎、頭部及び顔面の蜂窠織炎、上肢の神経痛、重聽、齒齦炎、

舞踏病、腸疝痛。

尺骨神経に接近するを以て灸は用ゆるることなし。

（肩）

貞）禁灸穴、改正孔穴、上肢部の内。

上肢を垂げて肩胛部に生ずる腋窩約紋の尖端にて肩峰突起の後下方に在り、三角筋の後縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内膊皮下神経の分枝（膊神経叢の枝）

後廻旋上膊動脈。

鍼の應用。

肩胛關節炎、上肢の麻痺、耳鳴、頭痛、諸熱性病。

臑

俞

肩胛部にて肩胛骨と上膊骨頭と關節するところに在り、即ち肩貞（上肢を下垂

して肩胛部に生ずる腋窩約紋の尖端)より肩峰突起の外端に向つて、一線を畫し其線を三分して上三分の一の點に當り、三角筋上に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

腋窩神経の分枝。

横肩 胛 動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

上膊の神経痛(特に壽命痛と稱するもの)、上肢の麻痺、肩胛關節炎。

灸十壯乃至二十壯。

天 宗

肩胛骨の中央にて肩胛棘の下縁に在り、即ち臑俞(肩峰突起の外端、即ち肩髃と肩胛部に生ずる腋窩約紋の尖端、肩貞とを結ぶ一線を引き、其線上に於て上三分の一の點)の後内方にて僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肩胛上神経。

横肩胛動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、上肢の神経痛、頸部及び顔面の皮下蜂窠織炎、上肢震顫、

咽頭カタル、癲狂。

灸十壯乃至二十壯。

秉 風

肩胛骨肩胛棘の上際にて棘の外端より後内方に向つて一寸許りに在り、即ち天宗(肩胛棘の外端より後内方に向つて一寸許り)より棘を隔て其上際に在り、棘上筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肩胛上神經。

横肩胛動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、肩胛筋及び上膊筋の麻痺、肩胛神經痛、頸部蜂窠織炎。

灸十壯乃至二十壯。

曲

垣 改正孔穴、肩胛部の内。

肩胛骨の略中央にて肩胛棘の盡るところの上縁に在り、即ち肩胛骨棘上截痕の上際中央にて僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

肩胛上神經。

横肩胛動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、肩胛筋萎縮、肩胛部の神經痛、肋膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

肩

外 改正孔穴、肩胛部の内。

第一椎、即ち第七頸椎棘狀突起下際の傍ら三寸に在り、僧帽筋の外縁にて肩胛骨の上内隅に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

後胸廓神經(或は肩胛背神經と云ふ)

横頸動脈。

鍼灸の應用。

半身不隨、筋萎縮、肩胛筋の麻痺、肩胛の神經痛、舌筋麻痺、失語症、失書症。

灸十壯乃至二十壯。

肩 中

第一椎(第七頸椎)の上際、即ち第六頸椎棘状突起下際(大椎)の傍ら二寸に在り、僧帽筋の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

後胸廓神経(或は肩胛背神経)

横頸動脈。

鍼灸の應用。

弱視、咯血、咳嗽、齒齦炎、氣管支カタル、下顎關節炎、頸筋麻痺。

灸十壯乃至二十壯。

天 窓

側頸部にて扶突(鎖骨の中央より上方三寸にて正中線の外方三寸)の後方一寸五分に在り、胸鎖乳嘴筋後縁の中央に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下頸皮下神経。

胸鎖乳嘴筋動脈(外頸動脈の枝)

鍼灸の應用。

牙間緊急、耳聾、扁桃腺炎、顔面神経麻痺、肩胛筋の攣痛、中風。

灸十壯乃至十五壯。

天 容

頰頰骨乳嘴突起の下端にあり、胸鎖乳嘴筋附着部の稍前方に當る。

此部に分佈する神経、血管。

大耳神経。

耳後動脈(外頸動脈の枝)

鍼灸の應用。

耳鳴、耳聾、耳漏、嘔吐、牙間緊急、項背筋の攣急、項背部の癱、呼
吸困難。

灸五壯乃至十五壯。

(顛)

禁灸穴、改正孔穴、顔面部の内。

頰骨結節の下縁にて咬筋起始部の前縁に在り。

此部に分佈する神経、血管、

頰骨神経の下枝(三叉神経第二枝の分枝)

横顔面動脈(外頭動脈の枝)

鍼の應用。

三叉神経痛、顔面神経痛、上齒疼痛、眼球震盪症。

聽 宮

耳珠の前にて下顎骨關節頭の前縁に在り、咬筋附着部の後縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

耳顛顛神経(三叉神経第三枝の分枝)

耳前動脈(外頭動脈の枝)

鍼灸の應用。

耳鳴、耳聾、齒痛、頭痛、半身不隨。

灸七壯乃至十五壯。

第七、足太陽膀胱經 六十三穴

(睛)

明) 禁灸穴。

内眦の少しく内下方に在り、眼輪匠筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

滑車下神経(三叉神経の分枝)

内眦動脈(外頸動脈の終枝)

鍼の應用。

角膜翳、網膜炎、結膜炎、夜盲症。

(攢)

竹) 禁灸穴、改正孔穴、顔面部の内。

眉間の正中より外方へ一寸、即ち眉毛の内端より少しく眉毛中に入りたるところにて凹陷を感じる部に在り、眼輪匠筋の外縁にて、上眼神経が上眼窠截痕より皮下に出する部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前頭神経(三叉神経第一枝の分枝)

上眼窠動脈(眼動脈の枝)

鍼の應用。

弱視、其他の諸眼病、臭鼻(オツエナ)、前頭部の疼痛。

曲

差 改正孔穴、頭部第一側線の内。

前頭にて髮際を入れる五分、眉弓内端の上方に在り、即ち神庭(頭部正中線にて前髮際を入れる五分)の傍ら一寸五分にて、前頭筋上に當る、但し前髮際不明なるものは眉毛より上方四寸を以て前髮際とす。

此部に分佈する神経、血管。

前頭神経(三叉神経第一枝の分枝)

前頭動脈(鼻前頭動脈の終枝)

鍼灸の應用。

頭痛、弱視、鼻孔閉塞。

灸を用ふることほとんどなし。

五 處

眉毛内端の上方にて前頭髮際を入れる一寸、即ち曲差(正中線の傍ら一寸五分にて前

髮際を入れる五分)の後方五分に在り、或は頭部正中線にて前髮際を入れる一寸の點(上星)の傍ら一寸五分にて、前頭筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前頭神經(三叉神經第一枝の分枝)

前頭動脈(鼻前頭動脈の終枝)

鍼灸の應用。

頭痛、眩暈、弱視。

灸を用ふることなし。

(承

光) 禁灸穴、改正孔穴、頭部第一側線。

前髮際を入れる二寸にて前頭顱門の外側、冠狀縫合上に在り、即ち顱會(前頭髮際)を入れる二寸にて前頭骨と左右顱頂骨の接合する部)と並び其傍ら一寸五分にて、皮下は帽狀腱膜を存す。

此部に分佈する神経、血管。

淺瀕瀕神經(三叉神經第三枝の分枝)

淺瀕瀕動脈の前枝。

鍼の應用。

頭痛、嘔吐、弱視、角膜炎、鼻カタル。

通

天 改正孔穴、頭部第一側線の内。

頭部第一側線(頭部矢狀線に併行して其側方一寸五分を距つ線)にて百會(頭部矢狀線が兩耳孔を連合する線と交叉するところ)と並び顱頂結節の稍上方に在り、帽狀腱膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

大後頭神經。

淺瀕瀕動脈の後枝。

鍼灸の應用。

頭痛、眼球の疼痛、衄血、慢性鼻カタル、鼻腔諸疾患、三叉神経痛、項筋の痙攣。

灸を用ふること殆んどなし。

〔絡〕 却〔禁鍼穴〕

後頭顛門（顛頂骨と顛額骨と後頭骨の接合するところ）の上に在り、即ち頭部矢狀線の傍ら一寸三分にて通天（矢狀線と左右の耳孔を結ぶ線が交叉するところが百會、其百會の傍ら一寸五分に在り）の後方一寸五分、帽狀腱膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

大後頭神經。

淺顛顛動脈の後枝。

灸療の應用。

白内障、耳鳴、鬱幽症、項筋の攣急。
灸を用ふること殆んどなし。

〔五〕 枕〔禁鍼穴〕

後頭部にて後髮際を入る二寸五分、即ち腦戸（後頭結節の直上）の傍ら一寸三分に在り、夾板筋の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

大後頭神經。

後頭動脈。

灸療の應用。

頭痛、眩暈、眼球疼痛、嗅覺減損。
灸を用ふることなし。

〔天〕 柱〔禁鍼穴、改正孔穴、頭部第一側線の内〕

後頸部にて項を挿む髮際俗に「ふりあし」と云ふ部の中程の外縁に在り、即ち後頭骨上項線の下方にて正中線を距る一寸三分、僧帽筋の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管、

大後頭神経。

後頭動脈。

鍼の應用。

頭重、肩胛筋の攣痛、嗅覺減損、上顎竇蓄膿症。

大

杼

改正孔穴、背部側線の内。

第一椎、即ち第七頸椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管、

頸椎神経の後枝。

但し内部の僧帽筋には副神経分佈す。

横頸動脈の下行枝。

鍼灸の應用。

肩胛筋の強急、頭痛、眩暈、耳の諸疾患、癲癩、膝關節炎、顔面神経麻痺。

灸十壯乃至二十壯。

風

門

第二椎、即ち第一胸椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管、

胸椎神経の後枝。

横頸動脈の下行枝。

鍼灸の應用。

項背筋の攣急、咳嗽諸症、百日咳、氣管支カタル、上顎竇蓄膿症、

狭心症、心悸亢進、心臟諸疾患、項背の癱疽、皮膚病。
灸十壯乃至三十壯。

肺 俞

第三椎、即ち第二胸椎棘状突起下際の傍ら一寸五分に在り、内部は肺尖に接近し、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

横頸動脈の下行枝。

鍼灸の應用。

喘息、肺氣腫、肺勞初期、結膜炎、氣管支カタル、肋膜炎、口内炎、
痒疹、咽頭カタル、喉頭カタル、下顎關節炎、肩胛部の癱疔並に
丹毒、同部蜂巢織炎。

灸十壯乃至三十壯。

厥 陰 俞

第四椎、即ち第三胸椎棘状突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

癩癩、癩狂、食道狭窄、言語不能、心悸亢進、肩背部の癱及び丹毒。

(心 俞) 禁灸穴、改正孔穴、背部側線の内。

第五椎、即ち第四胸椎棘状突起下際の下傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼の應用。

癲癩、癲狂、食道狹窄、言語不能、心悸亢進、肩背部の癱及び丹毒。

膈 愈

第七椎、即ち第六胸椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

胃痛、胃カタル、食道狹窄、喉頭カタル、咽頭カタル、心窩苦悶、鼓脹、便秘、糖尿病、咳嗽。

灸十壯乃至二十壯。

肝 愈

第九椎、即ち第八胸椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

癲狂、癲癩、ヒステリー、肺勞、全身痙攣の諸症、肝臟諸疾患、眼の諸疾患、黃疸、胸背筋の攣痛、咯痰、咯血。

灸十壯乃至二十壯。

膈 愈

第十椎、即ち第九胸椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上にて、内部は右は肝臟に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

黄疽、膽石痛、食道狭窄、頭痛、咽頭カタル。

灸十壯乃至二十壯。

脾 俞

第十一椎、即ち第十胸椎棘状突起下際の傍ら一寸五分に在り、僧帽筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

黄疽、膽石痛、肋膜炎、胃カタル、胃痙攣、白血病、發疹諸病、バ

セドウ氏病。

灸十壯乃至二十壯。

胃

俞 改正孔穴、背部側線の内。

第十二椎、即ち第十一胸椎棘状突起の下際一寸五分に在り、濶背筋上にて、

内部は胃及び腎臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

小兒吐乳症、消化不良、慢性胃諸疾患、急性胃腸カタル、背筋の攣

痛、黃疸。

灸十壯乃至二十壯。

三 焦 俞

第十三椎、即ち第十二胸椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、潤背筋上に當り、内部は腎臓の内縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

腺病、肺病、腎炎、慢性腸カタル、食慾減損、嘔吐、消化不良、頭痛、眩暈、熱性諸病。
灸十壯乃至二十壯。

腎

俞

改正孔穴、背部側線の内

第十四椎、即ち第一腰椎棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、腰背筋膜上に、内部は腎臓の内縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腰椎神経の後枝。

腰動脈の背枝。

鍼灸の應用。

腺病、肺病、中耳炎、咽頭カタル、慢性腸カタル、腸間膜勞、腸痛、消化不良、腎炎、腰部疼痛、バセドウ氏病。
灸十壯乃至二十壯。

大 腸 俞

改正孔穴、背部側線の内。

第十六椎、即ち第三腰椎棘狀突起下際の際ら一寸五分に在り、腰背筋膜上に

て、其下層は大腰筋に當り、内部は腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腰椎神経後枝。

腰動脈の背枝。

鍼灸の應用。

腰痛諸症、腸疝痛、裡急後重、白帶下、痔諸症、遺尿、尿崩、糖尿病、

大腸カタル、淋病。

灸十壯乃至三十壯。

小腸 俞

第一薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腰神経の後枝。

腰動脈の背枝。

鍼灸の應用。

腸カタル、消化不良、便秘、腸疝痛、精系痙攣、尿閉、膀胱炎、淋

病、白帶下、子宮諸疾患。

灸十壯乃至二十壯。

膀胱 俞

第二薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経の後枝。

側薦骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

脊髓勞、遺尿、膀胱カタル、腰部疼痛の諸症、子宮内膜炎、陰門瘻

痒症、感冒。

灸十壯乃至二十壯。

中 膏 灸

第三薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、即ち第三後薦骨孔の外側にて、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経後枝。

側薦骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

子宮諸疾患、腰部疼痛の諸症、不妊症、腸カタル、腸疝痛、腹膜炎、糖尿病、睪丸炎、卵巢炎、趾間白癬。灸十壯乃至二十壯。

(白 環 灸)

禁灸穴、改正孔穴、背部側線の内。

第四薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら一寸五分に在り、腰背筋膜上に當る。

但し改正孔穴に於ては尾閥骨の外方とす。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経の後枝。

側薦骨動脈。

鍼の應用。

裡急後重、膀胱麻痺、中風、腰部神経痛。

上

膠 改正孔穴、背部側線の内。

第一薦骨椎假棘狀突起下際の際の傍ら五分、即ち第一後薦骨孔に相當する部に在り腰背筋膜上にて腸骨後上棘の下方に當る。

此部に分佈する神経、血管。